

平成 26 年度 小平市いきいき協働事業



つながる！はじまる！

まちの居場所づくりガイドブック

小平市「まちの居場所づくり」調査報告書



小平市市民生活部市民協働
NPO 法人 MyStyle@こだいら

第1章 今、なぜ「居場所」なのか？

1-1 まちの居場所とは

少子高齢社会に突入し、経済の先行きも不透明な現在、あらためて地域の「つながり」が見直され、人と人がつながり、個人と地域がつながるきっかけになる「まちの居場所」に注目が集まっています。

ここでまちの居場所と呼ぶのは、「誰もが自由に出入りできる地域の小さな交流拠点」という性質を持つ場で、「地域の居場所」、「コミュニティカフェ」、「地域の茶の間」、「まちの縁側」など、様々な名称と形態で各地に広がっています。

居場所は個々にテーマを持つことも多く、そのテーマは、高齢者福祉、障がい者福祉、子育て支援、まちづくり、仕事づくりなど多彩ですが、共通するのは、関わる人々が人と人との「あいだ」で生きる力を回復し、個人と地域との「あいだ」で生き甲斐を見つけることのできる場所であるということです。

こうしたまちの居場所は近年、新しい地域づくりの仕組みの一つとして、地域福祉から地域活性化まで広い分野で、その存在意義が認められつつあります。

1-2 背景～今、なぜ「居場所」なのか？～

1. 「まちの再生」「暮らしを支える仕組み」をまちの居場所の力で！

(1) 希薄化するコミュニティ

なぜ、今、地域に根ざした起業への注目が高まっているのか、その背景について、1990年代はじめから現在に至るまでの時代の流れからたどります。

1990年代はじめのバブル崩壊から始まった経済不安は、失われた10年といわれましたが、実際は失われた20年を超えようとしています。その間、家族の形は大きく変わり、総務省発表の「平成22年国勢調査」では、単身世帯割合がはじめて核家族を超え、世帯全体の3割以上となりました。

また、希薄になった地縁コミュニティに伴い、無縁社会という言葉も生まれ、内閣府の平成22年の調査では、60歳以上の一人暮らしの男性の4人に1人は「頼る人がいない」と回答しています。また、同調査によると、「地域のつながりは必要」と思っている人は90%を超えるが、実際に居住地で「地域のつながりを感じる」人は77%にとどまっています。また、都市規模が大きいほど、「地域のつながりを感じる」人の割合が低いという結果も出ています。

しかし失われたものだけではなく、その中から生活の価値観の変化が生まれ、地域社会の見直しやコミュニティへの回帰意識、社会貢献意識も芽生え始めました。

平成7年の阪神淡路大震災を経て、平成10年にはNPO法が成立し、その後、10年余りの間に4万件以上のNPO法人が成立しました。それらの動きは、3.11の東日本大震災を経て、さらに力強く推進されています。

無縁社会も、未曾有の大災害も、痛みを伴う大きな出来事ではありましたが、そこから生まれ、発展していこうとしている時代の潮流を理解し、社会背景を知ること、今後の方向を見極めることが重要であると思われます。

(2) 70 代のシニアパワーでまちを支える NPO 法人の挑戦

こうした無縁社会の到来に、手をこまねくことなく産声を上げた NPO 法人があります。第 5 章で事例紹介する「NPO 法人柏原ユーアイネット」です。

日本全国、どこエリアでも見受けられる「かつてのニュータウン」の課題。住宅建設ブームの中で大規模なニュータウン建設が行われて生まれたまちも、30 年以上が経過し、子ども二人と両親、働く夫と専業主婦という典型的な核家族も、今では夫婦二人だけ、あるいは、高齢者一人だけという流れが押し寄せています。

ユーアイネットの舞台である狭山市の柏原ニュータウンも同様でしたが、こうした現状に風穴をあけようと立ち上がったのが、住民であり定年退職後のシニアを中心とした世帯でした。生活サポートを初めとした様々な事業を展開していますが、もっとも初めに手掛けたのは「コミュニティカフェ」事業でした。

シャッターの降りた空き店舗。そのシャッターを開け、まちの居場所であるカフェが生まれたことが「まちの再生」のスタートとなっています。

まさに「まちの再生」「暮らしを支える仕組み」をまちの居場所の力で！ を実現する一つの形が、ここに垣間見えます。

※ユーアイネットの活動の詳細は第 5 章をご覧ください。



2. 「まちの仕事の創出」「まちの活性化」をまちの居場所の力で！

(1) 広がるコワーキング

コワーキング（注）は、働く場所や所属先を特定しない働き方と共に、ここ数年、社会現象といってもよいほどに増加しています。

小平市内では、平成 26 年度現在はまだ目立った動きにはなっていませんが、雇用の流動化による若者世代を中心としたフリーランスの増加、コミュニティを中心とした新しい仕事づくり、遊休不動産の再活用、など、多様な働き方をサポートする働く場として、今後も増加傾向が続くと思われます。

コワーキングなどのシェア空間の価値は、コミュニティにあります。コミュニティが存在することで、共通したテーマのもとプロジェクトも生まれやすく、こうした場の存在は、ビジネスが生まれる場として貴重であるといえます。このことに着目し、その魅力に惹かれる層が利用者となります。

これからの不動産の価値は「ハコモノ」的なハードに対する価値だけではなく、「そこで何が得られるのか」というソフトの価値が問われてくると思われます。コミュニケーションが不動産の新たな経営資源となるということであり、これは、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）が不動産の価値として数値化されているともいえます。

（注）様々な業種、年齢の人々が集まり、仕事をする場所のこと。貸事務所と違い、仕切りがなくオープンなスペース。イベント開催や参加者同士の交流など「コミュニケーション」に重点を置いているのが特徴である。

(2) 空家活用と国交省の対策

日本では「築年数」の新しさに着目して物件を選ぶ傾向があります。その結果、築年数の古い物件には空き物件が多くなりますが、じつは、そこに居場所が生まれる可能性があります。

賃貸物件は原状回復が原則ですが、空き物件に悩む築年数の古い物件の場合は、自由に手を加えることが許容される場合も多く、その結果、古い物件をリノベーションしてコワーキングやシェア住宅として再生しようという動きが生まれ始めています。

国土交通省によると、全国の空き家の総数は平成 20 年の時点で約 760 万戸。そのうち個人が所有する住宅が約 270 万戸にのぼり、これらの個人所有の空き家は適切な管理が行われていないケースが多く、防犯や衛生などの面で地域の大きな問題となっているということです。

こうした中、国土交通省は、個人住宅の賃貸借や管理に関するガイドラインを平成 26 年 3 月 20 日に公開しました。ガイドラインの目玉は DIY 型の賃貸です。借り主が費用を負担し修繕や模様替えなどを行うといった賃貸タイプで、貸したくても改修費用がない住宅所有者と、賃料を安く借りて自分が必要と思う箇所だけ自由に改修を手掛けたいといった借り主の双方の需要を満たす仕組みとして、注目を集めています。商店街空き店舗や個人所有の賃貸住宅を改装した居場所の開設にも呼び水となる可能性がある施策です。

また、平成 27 年 2 月には、「空き家対策特別措置法」が施行されました。この空き家対策法は増加する空き家対策として政府が定めた法律で、空き家の所有者に対して税負担増などが盛り込まれ、さらに今後の空家活用が推進され、居場所づくりを後押しする流れが生まれることが予想されます。

※【報道発表資料】「個人住宅の賃貸流通の促進に関する検討会」の最終報告について～「借主負担 DIY の賃貸借」と「適切な空き家管理」の指針～（国土交通省）

http://www.mlit.go.jp/report/press/house03_hh_000091.html

※空家等対策の推進に関する特別措置法（平成 26 年法律第 127 号）の概要

<http://www.mlit.go.jp/common/001080534.pdf>

(3) 住宅街の一軒家をまるごと活用した仕事づくりの場

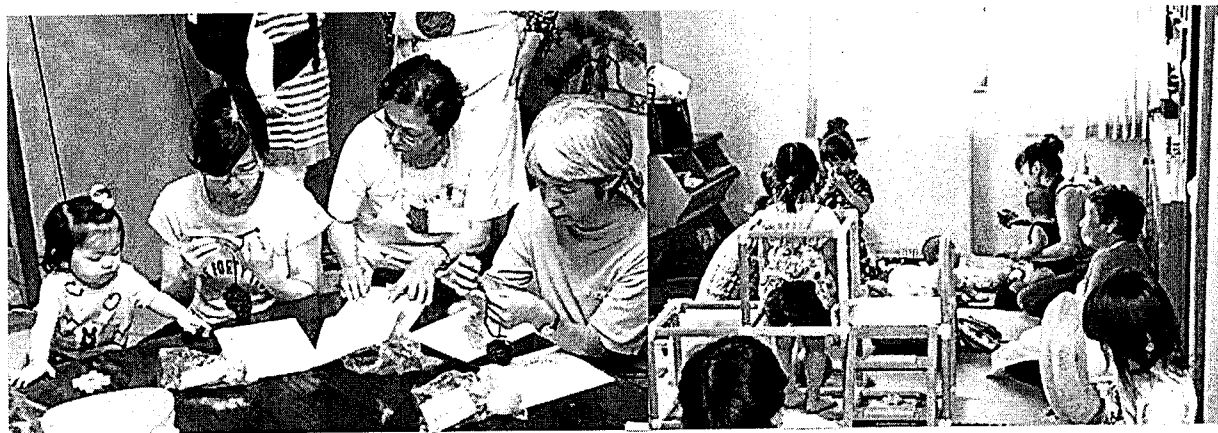
空家と仕事づくりの可能性を体現した事例として挙げられるのが、やはり第5章で事例紹介している「のらうら」です。

のらうらは、まちに根ざした仕事づくりの拠点を探す起業家と、空いたままになっている物件を地域に活用する場にしたいと考える大家さんとの出会いから誕生しました。

当初、仕事のスペースとして誕生した「のらうら」ですが、やがてその場所は、地域の多世代をつなぎ、近隣地域ともつながりあうコミュニティのハブのような場所として、役割を広げています。

地域課題ともいえる空家問題ですが、こうした事例が示すように、担い手と物件の出会いによって、「まちの仕事の創出」「まちの活性化」の発信源となる大きな可能性があると言えます。

※のらうらの活動の詳細は第5章をご覧ください。



第2章 まちの居場所づくりプロジェクト

2-1 「まちの居場所づくりプロジェクト」概要

1. プロジェクト概要

(1) 名称

地域でやりたいことを実現する 地域の居場所づくり事業
(通称：まちの居場所づくりプロジェクト)

(2) 実施体制

平成 26 年度小平市いきいき協働事業として、小平市市民協働と、NPO 法人 MyStyle@こだいらが、協働で企画・運営を行った。

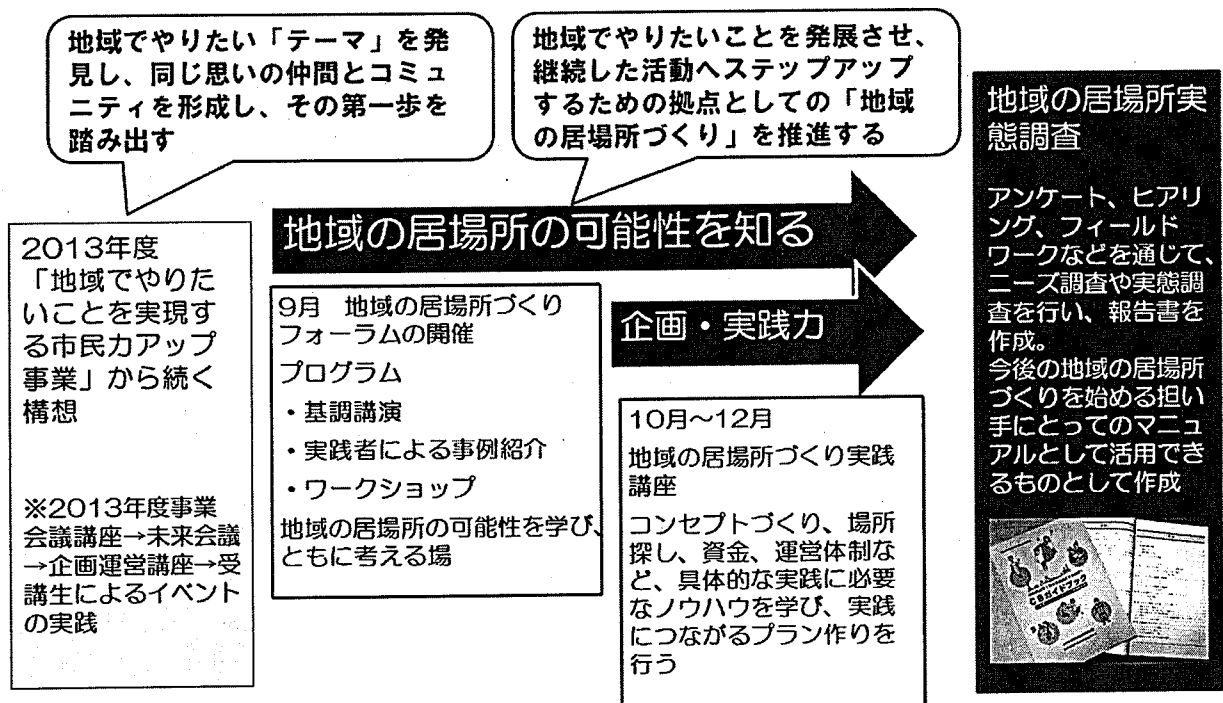
(3) 期間

平成 26 年 5 月 16 日～平成 27 年 3 月 31 日

(4) 場所

小平市内

(5) 事業スキーム



2-2「つながる はじまる まちの居場所づくりフォーラム」

1. フォーラム概要

(1) 日時

平成 26 年 9 月 6 日（土） 13 時～16 時 30 分

(2) 場所

小平市中央公民館 （小平市小川町 2-1325）

(3) 参加者数

53 名

(4) 参加費

無料

(5) プログラム

- ・基調講演：「人が生きる場所」を生み出す多様な居場所
- ・居場所の事例 1：一戸建てを舞台にした自分らしい仕事の場づくり
- ・居場所の事例 2：高齢化した団地を住みよいまちに！ 住民自ら生活支援と集いの場づくり
- ・ワールドカフェ：「居場所について」

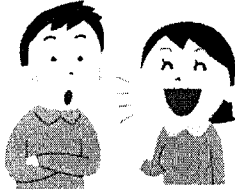
(6) 講師・ファシリテーター

- ・基調講演：山根 真知子さん（一般社団法人ユニバーサル支援社会創造センター 理事）
- ・居場所の事例 1：桑原 静さん（シゴトラボ合同会社 代表）
- ・居場所の事例 2：小澤 浩さん（NPO 法人ユーアイネット柏原 代表理事）
- ・ファシリテーター：松澤 拓矢さん（スプリングワークス 代表）

2. フォーラムの様子

「つながる はじまる まちの居場所づくりフォーラム」の様子をご紹介します。

① チェックイン・自己紹介



フォーラムにどんな人が来ているのか？ どんな思いを持っているのか？ お互いに自己紹介をしました。

③ 事例発表① (桑原 静氏)

一戸建てを舞台にした
自分らしい仕事の場づくり



「のらうら」で行われている「BABA ラボ」や「レンタルサロン」の活動について、お話を伺いました。

⑤ ワークショップ

つながろう はじめよう

私たちのまちの未来セッション



「あったらいいなと思う居場所」や、「居場所づくりのアイデアや工夫」について、参加者同士で話し合いました。

② 基調講演 (山根 真知子氏)

『人が活きるまち』を生み出す多様な居場所



コミュニティカフェやコワーキングスペースなど、多様な事例の紹介。そして、これからの居場所の動向についてお聞きしました。

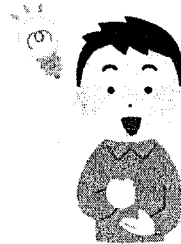
④ 事例発表② (小澤 浩氏)

高齢化した団地を住みよいまちに！
住民自ら生活支援と集いの場づくり



ユーアイネット柏原が行っている、「コミュニティカフェ”ゆうあい”」をはじめとした活動について、お話を伺いました。

⑥ 振り返り・全体シェア



講演を聞いたり、参加者同士で話し合う中で、考えたことや印象に残ったことを発表しました。

3. 参加者の感想

3人の講師がそれぞれ特徴を持っていて、話が全体的だったので良かったです。



居場所づくりのノウハウ、いろいろなコミュニティカフェのことなど、知らない情報があって参考になりました。



まず動き、発信する。たくさんのチャレンジのヒントをいただきました。



2-3「つながる はじまる まちの居場所づくり実践講座」(全 8 回)

1. 講座概要

(1) 日時

平成 26 年 10 月 3 日 (金) ～12 月 12 日 (金) 19 時～21 時 30 分

※見学会は、10 時～12 時

(2) 場所

① 講義

・小平市中央公民館 (小平市小川町 2-1325)

② 見学会

・のらうら (さいたま市南区鹿手袋 7-3-19)

・コミュニティカフェ”ゆうあい” (埼玉県狭山市柏原 3161-10 柏原ニュータウン 73-3)

(3) 受講者数

18 名

(4) 受講費

3,000 円 (8 回分、交通費別途)

(5) 講師・見学会案内人

① 講師

・竹内 千寿恵 (NPO 法人 MyStyle@こだいら 代表理事)

百田 浩 (NPO 法人 MyStyle@こだいら 監事)

② 見学会案内人

・のらうら

桑原 静さん (シゴトラボ合同会社 代表)

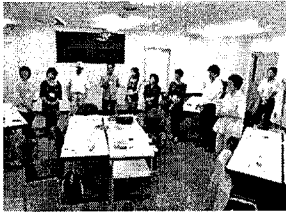
・コミュニティカフェ”ゆうあい”

小澤 浩さん (NPO 法人ユーアイネット柏原 代表理事)

2. 「つながる はじまる まちの居場所づくり実践講座」の様子

各回の講座の様子（※第3回、第5回は見学会。次のページに記載）

① まちの居場所って何だろう？



まちの居場所が必要な背景と、具体的な事例を学んだ後、受講者同士がお互いを知り合う交流会を行いました。

② やりたい方向性を確認しよう



「わたしのこれまでの物語」から居場所を作りたいと思ったきっかけを探り、コンセプトを書き出しました。

④ 実践の方法を考えよう



チームづくりや不動産についてを中心に、「居場所に必要な要素」やポイントについて、具体的に学びました。

⑥ 続けていくためのポイントを知ろう



居場所をつくるだけでなく、続けていくことが大切です。続けていくために必要な「資金」について学びました。

⑦ わたしの居場所を描いてみよう



「わたしの居場所」が5年後の新聞に取り上げられたら？ と未来新聞をつくり、それに向けて計画を立てました。

⑧ わたしのまちの居場所宣言



「わたしのまちの居場所」の発表です。もらったフィードバックを宝物として、一歩前へと踏み出します！

アンケートより

身近なところで活動されている方々がいて新鮮でした。居場所の必要性も感じました。

「わたしのこれまでの物語」では、忘れていたことに気づかされました。

コンセプトがしっかりしていれば、いろんなことが見えてきて、何を決めていかねばならないかが分かってきます。

お金の回し方は苦手分野です。初めて聞く、疑似私募債・クラウドファンディングが勉強になりました。

1年間のスケジュール、プランづくりの表を使って具体的に考えていきたいと思います。

みなさんの前でプレゼンして、自分の考えを違う方向から確認できました。

③ 【見学会】のらうら



「のらうら」の見学と、
そこで行われている活
動や、どのように運営
しているかなどのお話
を伺いました。

⑤ 【見学会】コミュニティカフェ”ゆうあい”



「コミュニティカフェ
”ゆうあい”」の見学と、
そこで行われている活
動や、立ち上げ時の物
語を伺いました。

見学会



※講座の内容の一部は、第3章「居場所づくりははじめの一步ストーリー」として、見学会を実施した2つの居場所のインタビュー記事は、第5章で「まちの居場所の事例紹介」として掲載しています。

「つながる はじまる まちの居場所づくり実践講座」には、これから居場所をつくりたいという、10代～60代の男女が参加しました。

講座序盤では、「まちの居場所」についての社会の動向や具体例を学ぶとともに、改めて、「なぜ自分が居場所をつくりたいのか？」と自らの思いを見つめなおし、これからの居場所づくりの核となる「コンセプト」を固めていきました。

講座中盤では、序盤で固めたコンセプトをもとに、居場所をつくる際の具体的なポイントを考えていきました。居場所を始めるときはもちろん、続けていくために必要なこととして、資金計画やチームづくり、不動産や保険についてなどを学びました。宿題として出されたニーズ調査（周囲の人へのインタビュー）では、取り組む前は「自分の居場所を必要としてくれる人が本当にいるのだろうか」とドキドキしていたようですが、宿題を終えて共有する顔ははつらつとしていて、終了後のアンケートには、「インタビューは得るものがたくさんあったので、コツコツ続けてみようと思います。」という声もあがっていました。

途中には2回の見学会も入り、実際に居場所として活用されている現場を見学したり、運営者にお話を伺ったりして、居場所の運営の現場を肌で感じながら、自らの居場所の構想を膨らましていきました。

講座終盤では、「もし、5年後の未来に新聞に取り上げられたら？」と想像して「未来新聞」を書き、その未来に向けて、中盤で学んだ要素をもとにしながら、計画を立てていきました。

最後は発表会、「わたしのまちの居場所宣言」として、これからつくりたい居場所像や、居場所をつくっていく過程を発表しました。

女性のためのシェアオフィス、産前産後のお母さんのための地域に開かれた拠点、自然の中にあるリラックスできるコミュニティカフェなど、夢が広がる発表でした。お互いの発表を聞いて刺激を受けたり、講師や受講者同士のフィードバックをもらったりして、居場所づくりに向けての一步を踏み出しました。

居場所づくりの実践は、もう始まりつつあります。次のセクションでは、講座受講者のその後の声を、後追い調査からご紹介します。

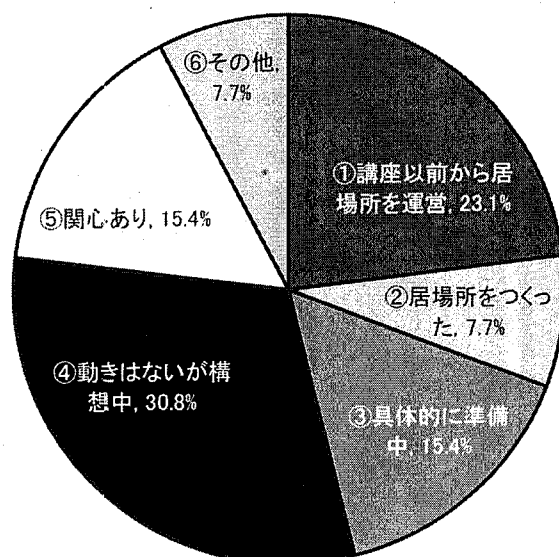
2-4 講座受講者のその後(3ヶ月後の後追い調査より)

1. 調査概要

「つながる はじまる まちの居場所づくり実践講座」の講座受講者は、その後、どのように過ごしているのでしょうか。講座受講者に対して、2015年3月初旬にアンケートを実施したところ、講座受講者13人から回答がありました。

2. 居場所設立の状況

＜半数弱が具体的に動き、4分の3が何らかのアクションを起こしている＞



「講座以前から居場所を運営」、「居場所をつくった」「具体的に準備中」をあわせて、46.2%と半数弱の人が、具体的に居場所づくりに向けて動いています。また、「動きはないが構想中」もあわせると、77.0%と8割弱の人たちが、居場所づくりに向けて何らかのアクションを起こしています。

3. 講座受講者の声

講座の受講者に、それぞれが運営する（しようとしている）居場所の「テーマ・コンセプト」、居場所づくりに動いている過程で「印象に残ったエピソード」、「大変だと感じていること」、「あったら良い、もっと居場所が作りやすくなると考えられるサポート（もの・こと）」について聞きました。



10代女性
学生

★テーマ・コンセプト

カフェ×地域の社会教育。地域の中高校生と一緒にカフェをつくりたい。

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

- ・自由に使える物件や場所。
- ・カフェをつくる時のアドバイス。

＜近況＞ 地域に根ざしたカフェを拠点として、対話の場づくりを2回実施。

★テーマ・コンセプト

寺子屋、子どもの居場所

★印象に残ったエピソード

応援してくれる人がたくさんいた。

★大変だと感じていること

運営とお金のこと

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

理解者が多い地域、場所

＜近況＞ 団地の空き店舗を利用して、居場所を立ち上げた。昼間はコミュニティカフェ、夜は子どもの寺子屋として活動中。



30代男性
建築業



60代男性
定年退職後

★テーマ・コンセプト

自分たちの固定した居場所をつくりたい。

その居場所を起点にみんなが気楽に集まれる場所と、

そこから始まる新たなコミュニティをつくりたい。

★大変だと感じていること

場所を新たにすることを検討しているが、初期投資がかかり、なかなか採算がとれない。

★テーマ・コンセプト

ミドル、シニアの集うサロンのような場所。以前は、パソコン通信の仲間でマンションを共同賃貸して、パーティや勉強会を開催していた。

★大変だと感じていること

固定費をいかに賄うかが課題。

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

なかなか会って話し合う機会をつくる（場をつくる、参加する）ことが難しうなので、定期的にビデオ会議などを開催し、お互いの話を聞いたり、コメントをしあったりできる場があるといい。

＜近況＞ 「シニアの就活」をテーマに、まずはWebで発信することから、事業づくりに取り組んでいる。



60代男性
定年退職後



60代女性
学習支援事業

★テーマ・コンセプト

小学校高学年・中学生・高校生の居場所。不登校や学習障がいのために学校に行きにくい子どもたちの居場所。

★印象に残ったエピソード

- ・「家では勉強ができないけれど、ここに来ればできる。」という不登校傾向の中学生。ほとんどの教科が赤点の私立中学生だったが、数学に特化して頑張って、60点が取れた。努力と成果が結びついた。
- ・チャリティーランに参加した男子中学生の父親が、わが子の走りに感動して、涙を流した。本人も自信をつけて、学校のマラソン大会で、タイムを30分縮めた。

★大変だと感じていること

資金調達

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

本やパソコン等教育機器もそろえたい。部屋のリフォームをできたらもっと使いやすくなる。

＜近況＞ 現在は、趣旨に賛同した団体から場所を提供してもらい、学習サポートを実践。地域に理解が広がっていくように、大人向けの勉強会やイベント等も開催している。

★テーマ・コンセプト

女性向けのシェアスペース

★印象に残ったエピソード

助成金の申請がきっかけで、具体的になり実現化がスピードアップした。

★大変だと感じていること

集客が不安だが、工夫をして乗り越えようと思っている。

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

広報面でサポートがあれば、根付いていけると思う。



50代女性
フリーランス

＜近況＞ 空き家になった実家を利用して、女性向けシェアスペースの開設に向けて活動中。改装も終え、4月オープン予定。

★テーマ・コンセプト

働く女性のための癒しのカフェ

★印象に残ったエピソード

居抜き物件等を探していたところ、居抜きカフェの運営の話があった。結局、現在の状況では難しいと判断しお断りした。

★大変だと感じていること

一緒に居場所づくりができる仲間をつくるのが難しい。



50代女性
主婦



50代女性
介護関係職員

★テーマ・コンセプト

高齢者とともにみんなの笑顔づくり

★印象に残ったエピソード

- ・講座の中で、慣れないソフトを使って資料を作ったが、それを配って説明することで、プロジェクトへの信頼と共感を得ることができている。
- ・忙しさのあまり、居場所づくりは難しいかと諦めかけていたときに、仲間が進めてくれたため、居場所をはじめることができた。

＜近況＞ 高齢者をはじめとした、地域の人たちの居場所を開設。公民館などで行っているが、固定の居場所を持てるように、物件を探している。

★テーマ・コンセプト

子育て中の母たちのライターチームで、打ち合わせ、会議、講座等を行っている。

★大変だと感じていること

- ・資金調達が大変。会費を取るか、活動によって収益を上げる必要性を感じているが、特に後者の金額設定がわかりにくい。
- ・公民館等を利用しており、半年先の部屋を予約できないので、告知に余裕を持たせられない。



30代女性
主婦

★テーマ・コンセプト

地域にひらかれた、気軽に誰でも立ち寄れるカフェスペース。

子育て中のママも、地域の方もほっと一息つける場所。

多世代交流が生まれる場所。

★印象に残ったエピソード

場所を探し歩いていたとき、公民館館長さん、自治会会長さんが、「ここを拠点にぜひやりましょう！」と、部屋利用を提案してくれた。

★あったら良いと思うサポート(もの、こと)

空き物件情報など、活用できそうな場所の情報が簡単に検索できたら、居場所づくりのハードルが低くなると思う。



30代女性
主婦

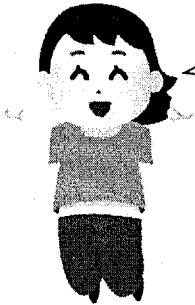
＜近況＞ 公民館を利用して、産前産後のお母さんたちが気軽に立ち寄れるカフェの開催がスタート。

それぞれの夢を持って講座を受講したみなさんは、それぞれのスピードで、確実に前に進んでいる様子です。前に進めば、印象に残るうれしい経験も、時には壁にぶつかることも出てきます。アンケートでは、今まさに経験している生の声を聞かせていただきました。

これからひとつ、ふたつと新たな居場所が誕生してくることでしょう。そこで何が起こってくるのか、これからがとても楽しみです。

第3章 まちの居場所づくり「はじめの一步」ストーリー

みなさんは「居場所づくり」について、どんなイメージを持っているでしょう。



小平花子（28才）です☆
まちの居場所づくりにチャ
レンジします！

つくりたい気持ちはあっても、「難しそう」と
思う人や「イメージは持っているけれど、な
かなか実行に移せない」という人もいるかも
しれません。

本章では、小平のまちで、新たに居場所づくりにチャレンジする「小平花子」
さんのストーリーを通して、居場所づくりの実現のための道筋を紹介します。

花子さんと一緒に、居場所づくりの「はじめの一步」をたどりながら
「私の場合はどうだろう？」と考えながら、プランを練ってみてください。

3-1 「夢」編

1. 【原点】なぜ居場所をつくりたいの？

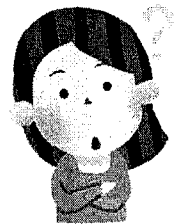
◎花子さんの夢◎

じつは、花子さんには、あたためている夢があります。

それは、お年寄りも、大人も、子どもも、わいわいにぎやかに食卓を囲んで「お
いしいご飯」が食べられる居場所をつくること。

『花子さんは、なぜ、そういう居場所をつくりたいと思ったの？』

居場所づくりの夢の話をする、と、多くの人から質問されます。



『あれ？あらためて問われると、うまく説明できないなあ…』

はじめの一步を踏み出す時に、「原点」を確認することは大切です。原点がしっかりつかめていると、
それが「羅針盤」となって、これからの居場所づくりの道筋を示してくれます。
協力してほしい人にも、思いを伝えることができます。

居場所をつくろうと思ったきっかけは「ちょうど空いている場所が見つかったから」でしょうか。
仕事の一環で拠点をつくりたいから、でしょうか。
こうした直接の理由の、もっと奥をたどってみると、本当の思いが見つかるかもしれません。

その手掛かりは、これまでの思い出の中にあるかもしれません。

そこで、花子さんは、思い出を振り返りながら、「居場所づくり」がしたいという「思いの基」を探
してみることにしました。

やってみよう!

原点は、羅針盤!

紙とペンを用意してください。静かに落ち着いて考えられる場所で、以下の問いを、じっくり考えてみてください。可能であれば、浮かんできたことを、あなたの話にじっくり耳を傾けてくれそうな誰かに、話してみることもおすすめです。

- ・これまでを振り返って、あなたが「居場所をつくりたい」と思うようになったきっかけになった出来事は何でしょう?
- ・どんな出来事が思い出されますか?どんな光景が思い出されますか?それはいつのことでしたか?場所はどこでしたか?あなたは何をしていましたか?どのような人たちが、まわりにいましたか?
- ・どのような気持ちを感じていましたか?そのときに体験したことは、「あなたの居場所づくり」にどうつながっていますか?

◎花子さんの思い出のシーン◎

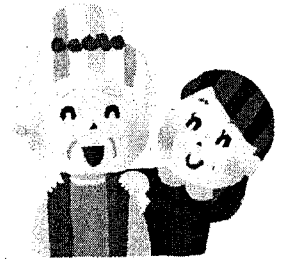
思い出を振り返った花子さんは、最初に、子どもの頃の家族と囲んだ食卓のシーンを思い出しました。

両親が仕事で忙しかった花子さんは、おばあちゃん子。

食卓のシーンには、いつも、やさしくにこにこしているおばあちゃんがいました。子ども時代の、幸せな気持ちが思い出されました。

次に思い出したシーンは、花子さんが高校生の頃。家族それぞれの時間が合わなくなって食卓を囲むことが少なくなった頃でした。おばあちゃんの背中が寂しそうでした。

ごめんなさいという気持ちが湧き上がってきました。



花子さんの「お年寄りも、大人も、子どもも、わいわいにぎやかに食卓を囲んで、おいしいご飯が食べられる居場所をつくる」夢の原点は「幸せな気持ちだった子どもの頃」「おばあちゃんの寂しそうな姿」にあったようです。

では、その「つくりたい居場所」は、誰のための居場所なのでしょう。

そこで何を提供したいのでしょうか。

花子さんは、さらに考えを深めてみることにしました。

2. 【誰に・何を】誰のための居場所?何を提供したいの?

◎誰のための居場所?◎

思いを振り返って、居場所づくりの「原点」を見つめ直した花子さんは、「おいしいご飯」を通じた居場所づくりがしたいことがわかりました。

では、その場所に来てほしい人は「誰」でしょう?

ポイント

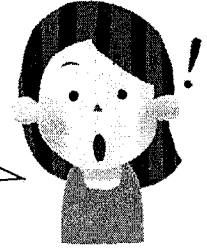
「誰の」ための居場所をつくりたいのか確認しよう！

あなたがつくりたい居場所には、どんな人が来てほしいのでしょうか？あなたの相手は誰ですか？

★具体的に考えてみましょう。

- ・年齢は？
- ・性別は？
- ・どんな生活スタイルの人？
- ・どんな困りごとを持つ人？
- ・なにを必要としている人？

なるほど～。どんな人のための居場所なのか、具体的に考えると、居場所のイメージもはっきりしてくるわ！



花子さんの夢は「お年寄りも、大人も、子どもも、わいわいにぎやかに食卓を囲んで、おいしいご飯が食べられる居場所をつくる」ということでした。

では、具体的に、その居場所に来てほしいのは、どんな「お年寄り」であり「大人」であり「子ども」なのでしょう？具体的に考えてみました。

すると、「年齢や性別は問わない」けれど「日頃、人と交流する機会が少なく、ひとりで食事をすることが多い人」に、来てもらいたいのだということが見えてきました。

さらに考えると「一人暮らしのお年寄り」「孤立しがちな子育て中のママ」「下校後に一人になってしまう小学生」に、人とつながれる居場所をつくりたいのだということがわかってきました。

◎その居場所では、何を提供するの？◎

花子さんにとっての「相手」のイメージが見えてきました。その相手は、どんなニーズを持っているでしょう？花子さんがつくる居場所では、そのニーズを、どう満たしてあげればよいのでしょうか？

やってみよう！

その居場所では「何を」提供すればよいのか、調べよう！

あなたがつくる居場所は、特定の相手に「何を」提供しますか？どう役に立ちたいですか？

◎相手にとっての価値。メリット→相手の課題が解決される内容。安心安全、おいしい、便利など。

◎価値は物質的なものとは限らず、精神的な満足も含みます。→ふれあいの場、癒しなど。

★ニーズ調査インタビューで調べてみましょう。

あなたの「相手」だと思われる人にニーズ調査インタビューをしてみましょう。知り合いからスタートで大丈夫、そこから該当する人を紹介してもらうなど、できるだけ多くの声をききましょう。

リラックスしたインタビュー形式でやってみると、本音も含めて、気づかないものが見えてくることもあります。相手がどんな「困りごと＝ニーズ」を持っていて、どのように「ニーズを満たして、解決」できるか、以下の質問例を交えながら、相手のニーズを発掘しましょう。

- ・どんなことで困っていますか(ニーズ)
- ・困りごとが解決しない原因ってなんでしょう
- ・どんな居場所があるといいですか？



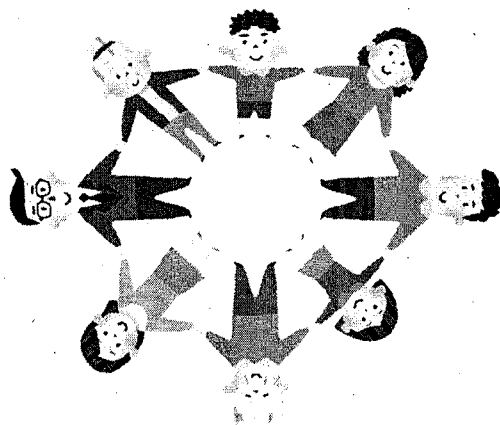
3. 【イメージ】その居場所から、どんな未来が生まれるか描いてみましょう

◎居場所の未来の物語◎

インタビューをやってみた花子さん。漠然としていた居場所のイメージがはっきりしてきました。

花子さんがつくりたい居場所の相手は、「年齢や性別は問わない」けれど「日頃、人と交流する機会が少なく、一人で食事をする人が多い人」具体的には「一人暮らしのお年寄り」「孤立しがちな子育て中のママ」「下校後に一人になってしまう小学生」

その人たちがほしいのは、「そこに行くと誰かがいて交流できる場所」「おしゃべりできる相手と出会える場所」「健康に良くて暖かい家庭料理が食べられる場所」「仕事に出かける親が安心して子どもを預けられる場所」



では、その居場所からはどんな未来が生まれるでしょう？

やってみよう！

居場所の5年後を「未来新聞」で描いてみよう

次ページのサンプル記事を参考に、記者目線で居場所の5年後を表現してみましょう。
今から5年後。あなたは「まちの居場所」を開設して3年目です。立ち上げ期の大変さを乗り越え、地域に根をはり、まちのなかで、なくてはならない場所になりつつあります。

そんなときに、X新聞から「ぜひ！」と取材申込みがきました♪

さて、そのときに、あなたの居場所の、「どこ」が記者の注目を集めたのでしょうか？

- ・未来の新聞にあなたの事業を紹介する記事を書いてください。
- ・ぱっと目に付く「見出し」を考えてください。
- ・地域調査、ニーズ調査の内容も織り込んでください。

3-2 「そろばん」編

「原点」を見つめ、居場所に来てほしい人、その人たちに提供したいことも整理できました。
夢編で「居場所のコンセプト」をつくったあとは、いよいよ具現化。
「そろばん編」がスタートです。

1. 【どこに】まち歩き・場所探し

居場所のイメージもしっかり描けた花子さん。

『実際に居場所をつくるとしたら、どこにつくろう?』

まずは、まちを知ることから! ということで、まちに飛び出して「まち歩き」「物件探し」をすることにしました。

やってみよう!

居場所の候補探しと「まち歩き」

居場所の候補探しのまち歩きをしましょう。目的は二つ。

その1 物件探し

その2 物件情報だけではわからない「まちの空気」をつかむ

- ・どんな人がいるか、どんな人が暮らしているか
- ・どんな会話が交わされているか
- ・人の流れはどれくらい、どう流れているか
- ・好きな場所、好きな光景

◎準備◎

- ・地図(できるだけ細かいもの)

住宅地図(一枚300円でコンビニ出力)の利用も! <http://www.zenrin.co.jp/j-print/>
気になったこと、気がついたことを書き込むと良い

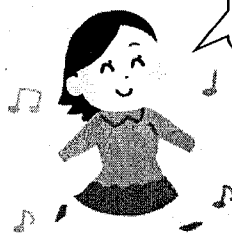
- ・見て回りたい物件候補

不動産サイトをネットで検索する。予定地近くの不相談屋を尋ねる。

- ・デジカメ

物件候補が見つかったら、内覧。室内の写真を様々なアングルで撮影。物件周辺の写真も撮影。

交通の便の確認。自転車、徒歩、電車、コミュニティバスなど、様々なアクセス方法もチェック。



まずは、まちを
探検ね♪



2. 【誰と】どんな仲間？どんなネットワーク？

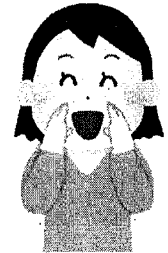
いよいよ具体的に動こうと思った花子さん。

でも、実際に動くことを考えると、一人で居場所づくりは難しいという現実と直面しました。

花さんはアイデアマン。アイデアをもとに企画することは得意です。行動力もあります。でも、細かな事務作業は、実はあまり得意ではありません。

食事を提供する場所をつくりたいと思っていますが、お料理もあまり得意ではありません…。

一緒に居場所
づくりしませんか？



『居場所づくりのためには、お互いの得意を持ち寄れる仲間が必要だなあ…』

そこで花さんは、これまでの構想を、「企画書」にまとめて、仲間になってほしい人に、声をかけていくことにしました。

まちに根ざした居場所づくりのためには、様々な「人の力」をつなげていくことが大切です。

ともに居場所を立ち上げる「仲間」

仲間がいきいきと活動できるための「組織のあり方」

つながりあう「地域ネットワーク」

では、どのように、それぞれの力を生かしていくことができるでしょう。

◎仕事なの？ボランティアなの？◎

ポイント

スタートする前の大前提～居場所運営の方向性～

あなたは、居場所の運営を、どういう方向ですすめていきたいのでしょうか？

あなたは、まちの居場所づくりを

「仕事」としてやっていきたいのでしょうか？

「ボランティアベース」でやりたいのでしょうか？

つくりたい居場所は、その違いによって組み立て（スタッフのあり方、場所の条件）が異なってきます。

★関わり方

- ・仕事としてやりたい→私もメンバーも、有給スタッフ
- ・ボランティアベースでやりたい→私もメンバーも無給
- ・ビジネスとボランティアの組み合わせな

→有給スタッフ+ボランティア

参考) レストラン・広場・デイサービスの3つの居場所を運営する NPO 法人高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会（立川市）のメンバーは、状況に応じて、ある時は有給スタッフ、またある時はボランティア、ときには利用者という風に、3つの立場をメンバーが自由に行き来しながら、事業を運営しています。

★居場所のタイプ

- ・公共施設の一室？自宅の一角を活用？賃貸物件を借りる？

よいチームになる
ためにも、大切



そっかあ…。居場所を
続けていくためには、メン
バーの関わり方や居場所
スペースのことも、ちゃ
んと考えないとね。

『なるほど…』。花子さんの居場所づくりは「夢」を描くことからスタートしましたが、実際に場所を立ち上げるには、現実的な「そろばん」の部分も大切だということがわかりました。

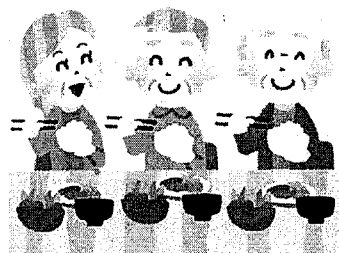
『いつかは、常設の居場所をもちたい!』そう思う花子さんですが、まずは一歩一歩から。

企画書を持って夢を語っていくうちに、賛同してくれる仲間も数人みつかりました。

みんなで作戦会議した結果、まずは本格スタート前に助走期間を設けて小さく実践し、居場所の現実的な方向性を探ろうというアイデアも生まれ、月に1回、調理室のある場所を借りて、試食交流会を開くことになりました。



一緒に調理して、できたてのご飯を囲みながら、居場所へのニーズ。そこで提供される食事やサービスの要望など、耳を傾け、持ち帰り、プランに磨きをかけていきます。



同時に、居場所物件を探したり、必要な知識を調べ、学ぶこともスタートします。

居場所づくりに必要な手続きや、関わる人のための保険のこと、居場所を続けていくための資金のこと、法人にするのか任意団体にするのか、

などなど。学ぶことはいっぱいです。



◎地域ネットワーク◎

こうしてはじめての一歩までこぎつけた花子さん。事業はいよいよこれからですが、実際に事業をまわしていく過程では、不安なこともいろいろあります。そんなときに、相談しあったり、情報を得たり、連携したりといった地域内の仲間がいると心強いと考えた花子さんは、積極的にネットワークづくりにも動きました。今では、まちで出会うと気軽に挨拶をかわしたりする知り合いも増えて『ひとりじゃない。』と感じる毎日です。

やってみよう!

ひとりじゃないよ～地域ネットワークをつくろう～

●市民活動とつながりたいなら「小平市民活動支援センター あすぴあ」

市内の市民活動団体の情報提供はじめ、交流スペース、会議室、印刷スペース、メールボックス、図書資料の閲覧、機材の貸し出しなどのサービスが利用できます。

<http://kodaira-shiminkatsudo-ctr.jp/>

●ボランティアを探すなら「小平市社会福祉協議会ボランティアセンター」

ボランティアをしたい個人や団体と、ボランティアのサポートを求めている個人や団体のコーディネートや、各種養成講座・講演会を通した啓発活動、ボランティア・市民活動に関する情報の収集・発信を行っています。

<http://www.syakaifukushi.kodaira.tokyo.jp/modules/facilities/index.php?id=6>

●多摩地域のネットワークをつくりたいなら「多摩CBネットワーク」

多摩地区各地での地域に根ざした仕事づくりに取り組む団体がゆるやかにつながっているネットワーク。年に1度はシンポジウムを開催している他、多摩各地での関連イベントも活発。小平を超えて、広く多摩の動きを知ることができます。

<http://tamacb.org/>

3-3 「情報」編

1. 居場所づくりのノウハウを学ぼう

居場所づくりのはじめの一步をスタートさせた花子さんですが、本格スタートまでには、まだまだたくさんのことを学ぶ必要があるとわかりました。

調べてみると、身近なところで色々な関連の講座が開催されていました。

事業として立ち上げるのか、ボランティアな活動にするのか、決めかねている花子さんですが、続けていくためには、どの方向に行くとしても、資金のことも、

組織のことなど、必要な知識を得て計画を立てることが大切！ということで、居場所づくりのノウハウも身につけられる起業講座に参加することにしました。



やってみよう!

起業講座への参加

まずは、起業に関する講座などに一度参加してみましょう

そこには、みなさんと同じように、夢を実現したいと思っている方がたくさん参加しています。

お互いの夢を形にするプロセスを、励まし合いながら、切磋琢磨しながら、終わるころには互いに協力し合えるパートナーになれるかもしれません。

※開催予定は個別にお問合せください。

●多摩信用金庫 創業支援センターTAMA(2016年3月まで)

東京都「インキュベーションHUB推進プロジェクト事業」の採択を受け、多摩信用金庫が運営しているプロジェクト。多摩エリアの創業に関わる講座、イベントを各地で開催している。

<http://www.startup-tama.jp/>

●西武信用金庫 西武事業支援セミナー

西武信用金庫が主催し、創業セミナー、事業セミナーを開催している。

事業者や、従業員、またはこれから事業を始めたい方を対象に、業種や目的を絞り込んだセミナーを企画・開催している。

<http://www.seibushinkin.jp/seminar/index.htm>

●中小企業大学校関東校 BusiNest(ビジネス)

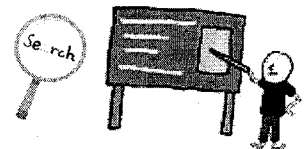
オフィススペース、専属サポーターによる支援、視野とネットワークを拡げるイベント、ビジネスを基礎から学べるプログラムなどがある。

<http://businest.smrj.go.jp/>

●NPO法人Mystyle@こだいら

地域に根ざした事業の起業講座等を開催。地域密着のコミュニティビジネス中間支援組織として、自分らしいスタイルで働くワーク・ライフ・バランスの実現と暮らしやすいまちづくりに寄与することを目指し、コミュニティビジネスを育むための基盤づくりに取り組んでいる。

<http://mystyle-kodaira.net/>



2. 居場所づくりに役立つ情報 URL

※2015 年 3 月末現在。URL や施策・組織名称等は変更になることがあります。

(1) <助成金など>

○小平市

小平市市民活動支援公募事業 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/oshirase/043/043183.html>

市内で活動する市民活動団体やNPO、自治会などの事業を支援するため、団体が自主的に企画する公益的な事業の経費の一部を補助。立ち上げ団体コース（活動実績 3 年未満の団体）は、事業にかかる費用（上限 10 万円）を、一般団体コース（活動実績 1 年以上の団体）は、事業にかかる費用の 2 分の 1（上限 30 万円）を補助。

小平市いきいき協働事業提案制度 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/034/034768.html>

地域の団体が、公益性の高い事業及び市民の視点による新しい事業を提案し、市と協働で行う事業に対して、新規事業の場合、1 事業 200 万円（上限）。

市内店舗改修補助事業制度 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/038/038200.html>

小平市内で小売業等(小売業・卸売業・宿泊業・飲食業・サービス業)を営む店舗を対象。補助対象経費の 2 分の 1 を補助。上限金額は既存店舗改修工事等：上限 20 万円以内、新規店舗改修工事等：上限 40 万円以内。

○西武信用金庫：http://www.seibushinkin.jp/outline/machi_josei_1st.htm

西武街づくり活動助成金

地域の課題解決に取り組む NPO 法人等の活動支援を目的とした助成金。助成金は、「街づくり定期預金」受取利息の一部と、日本財団からの交付金、西武信用金庫の拠出金から成り立っている。

○助成財団センター：<http://www.jfc.or.jp/> 助成金情報、助成金応募ガイドの案内など

(2) <融資>

○東京都：<http://cb-s.net/tokyosupport>

女性・若者・シニア創業サポート事業

女性、若者（39 歳以下）、シニア（55 歳以上）で、創業の計画がある、又は創業後 1 年未満の者が対象。無担保、金利 1 %以内、1000 万円まで。融資前の事業計画段階に加え、融資後も 5 年間事業相談を受けられることが特徴。

○西武信用金庫：http://www.seibushinkin.jp/info/wagamachi_change_7.htm

ソーシャルビジネス成長応援融資「CHANGE」

主たる事業が福祉、教育、環境、まちづくりなどの社会貢献性の高い事業が対象。固定金利 0.1%、原則無担保、500 万円まで。融資前・後には、必要に応じて成長応援プログラム（先輩経営者や専門家による経営相談、長期学生インターンによる人的サポート等）を提供。

○多摩信用金庫

たま創業支援融資ブルーム

http://www.tamashin.jp/02_business/06_service_list/02_yushi/bloom.html

創業当初を応援。元金据置返済期間最長3年まで。1年目は固定金利1%。2年目以降は変動金利。原則無担保。500万円まで。

NPO 事業支援ローン http://www.tamashin.jp/02_business/06_service_list/02_yushi/npo.html

NPO 法人専用ローン。固定金利3.0%以内。ただし、国または地方公共団体等からの受託業務に関するつなぎ資金の場合は固定金利1.0%。原則無担保。500万円まで。

○日本政策金融公庫：<http://www.c.jfc.go.jp/jpn/bussiness/>

中小企業者のニーズや国の政策に沿って様々な特別貸付を用意。

各融資の条件は、サイトでご確認ください。

(3) <スペースの提供>

○小平市民活動支援センターあすぴあ：<http://kodaira-shiminkatsudo-ctr.jp/>

交流スペース、会議室、印刷スペース、メールボックス、図書資料の閲覧、機材の貸し出しなどのサービスを提供。また、市民活動に関する「なんでも相談室」を開設。

○BusiNest (ビジネススト)：<http://businest.smrj.go.jp/>

中小機構関東が、中小企業大学校東京校内(東京都東大和市)に開設した創業支援・新事業支援拠点。コワーキングスペース、シェアオフィスなど創業時に必要な設備とともに、事業相談にもきめ細かく対応している。

(4) <創業関連情報サイト>

○経済産業省 関東経済産業局 コミュニティビジネス情報

<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/community/index.html>

創業マニュアルや経営力向上マニュアルもダウンロードできる。(CB創出、育成支援ページ)

○中小企業庁ミラサポ：<https://www.mirasapo.jp/>

公的機関の支援情報・支援施策＝補助金・助成金などの情報提供や、経営の悩みに対する先輩経営者や専門家との情報交換の場を提供する、中小企業・小規模事業者のサポートサイト。

第4章 アンケートによるニーズ調査

4-1 「地域の居場所についてのアンケート」調査概要

1. 調査目的

このアンケートは、小平市に何らかの関わりがある人たちが、居場所に関してどのように意識しているのかを明らかにするとともに、今後の居場所づくりへの資料を提供することを目的としています。

2. 調査概要

(1) 調査期間

2015年2月9日（月）～2015年3月6日（金）

(2) 調査対象

市民及び、小平市に何らかの関わりがある方

(3) 調査方法

① Web アンケートフォームで回答

- ・ホームページやメーリングリスト、SNS など、Web 上で幅広く呼びかけ、アンケートフォームへの直接入力によりデータを収集。

② アンケート用紙で回答

- ・市民活動支援センター（あすびあ）および公民館、地域センターでアンケート用紙を配布・回収。
- ・アンケート用紙を、知人などへ直接手渡しで配布・回収。

(4) 回答数

230 件

(5) 調査項目

巻末「参考資料」に記載

(6) 報告書中の表記について

- ・本報告書では、集計結果の数値を、特に断りのないかぎり、小数点以下第 2 位で四捨五入しています。そのため、各回答の合計が 100%に一致しないことがあります。
- ・複数回答の設問については、回答比率の合計は、100%を超えます。

4-2 調査結果

1. 調査対象について

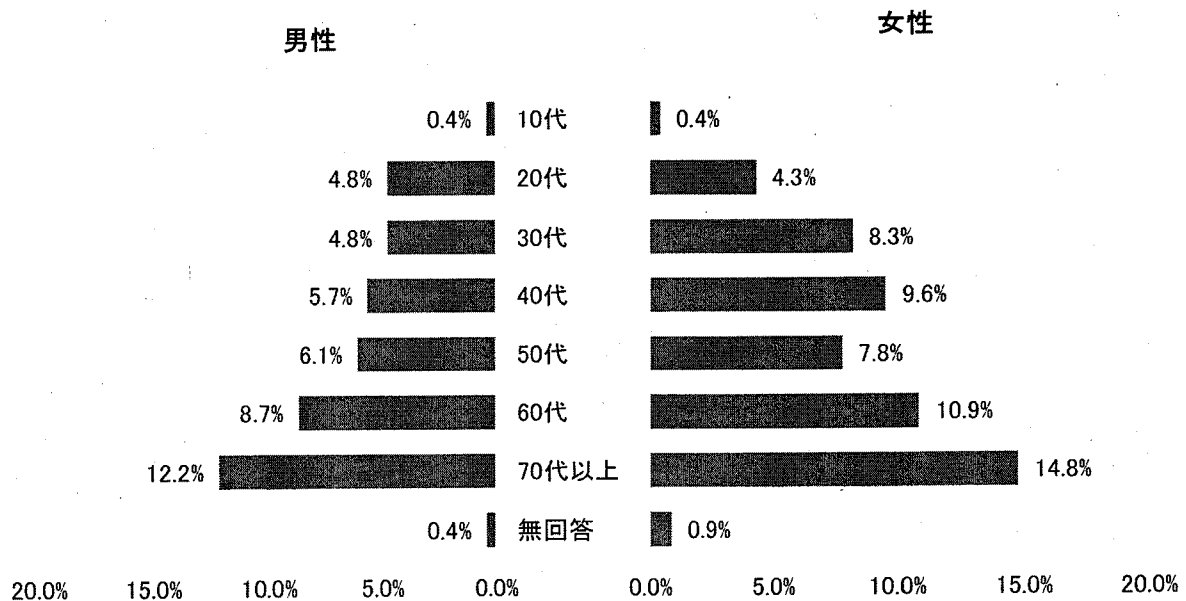
(1) 調査対象

① 回答数

230 票

② 年齢・性別回答数（単位：人）

		年齢								
		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	無回答
性別	全体	230 100.0%	2 0.9%	21 9.1%	30 13.0%	35 15.2%	32 13.9%	45 19.6%	62 27.0%	3 1.3%
	男性	99 43.0%	1 0.4%	11 4.8%	11 4.8%	13 5.7%	14 6.1%	20 8.7%	28 12.2%	1 0.4%
	女性	131 57.0%	1 0.4%	10 4.3%	19 8.3%	22 9.6%	18 7.8%	25 10.9%	34 14.8%	2 0.9%



③ 職業等（複数回答）

会社員（15.7%）、自営業（3.0%）、パート・アルバイト（10.9%）、学生（3.0%）、主婦（24.3%）、無職（16.5%）、その他（8.7%）、無回答（17.8%）

④ 小平市との関係（複数回答）

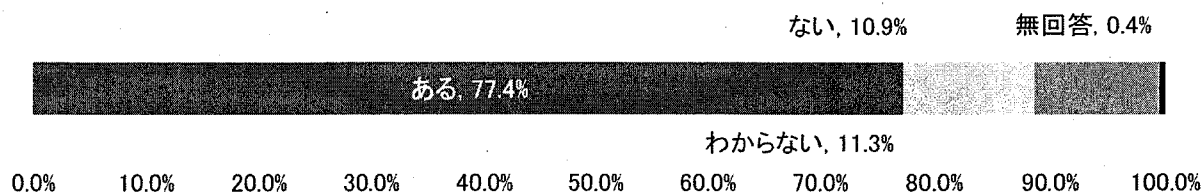
在住（73.0%）、在勤（23.0%）、在学（4.3%）、親族がいる（8.3%）、知人がいる（9.1%）、かつて住んでいた（4.8%）、隣接市に住んでいる（6.5%）、その他（2.6%）

※在住、在勤、在学のうち、いずれか1つ以上に当てはまる人：207人（90.0%）

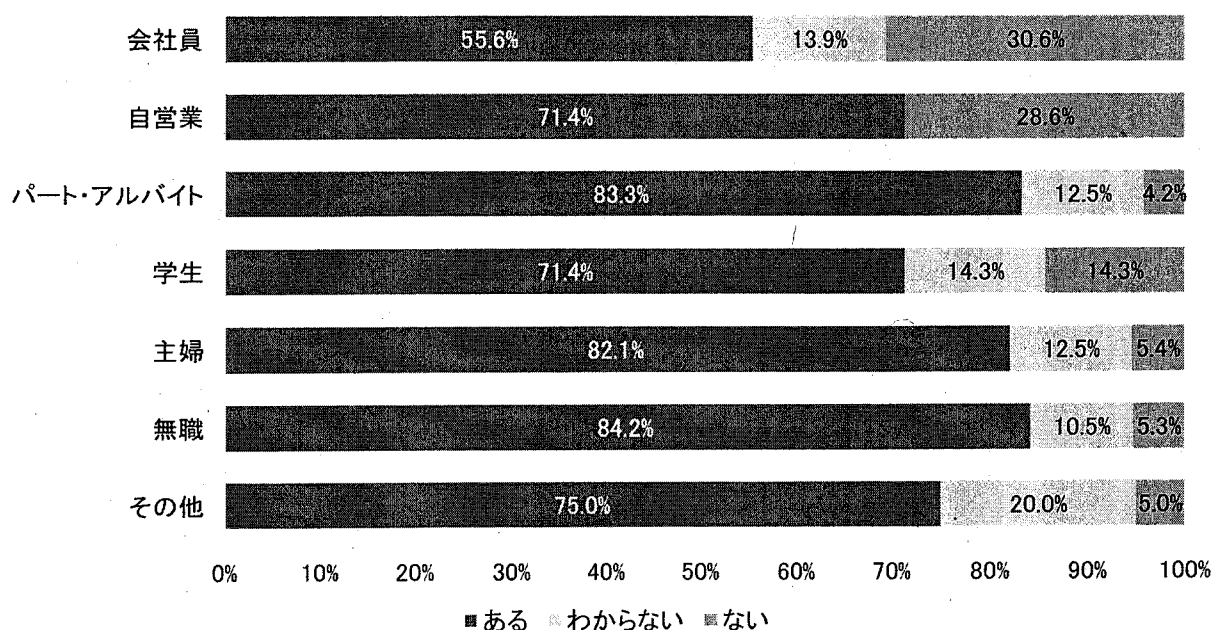
2. 居場所への関心について

●居場所に関心がある人が約8割 「会社員」は、居場所への関心が低い

(1) 居場所への関心の有無(単位:%)



(2) 居場所への関心の有無(職業ごと)(単位:%)



※「職業」が無回答の場合は除いて集計 (n=188)

【分析】

- ・全体の8割弱の人が「居場所に関心がある」と回答しています。また、全体の1割の人は、「居場所に関心がない」と回答しています。
- ・職業別に分析したところ、ほとんどの職業で「居場所に関心がある」と回答した人が7割を上回っています。しかし、「会社員」については、55.6%と相対的に低くなっています。

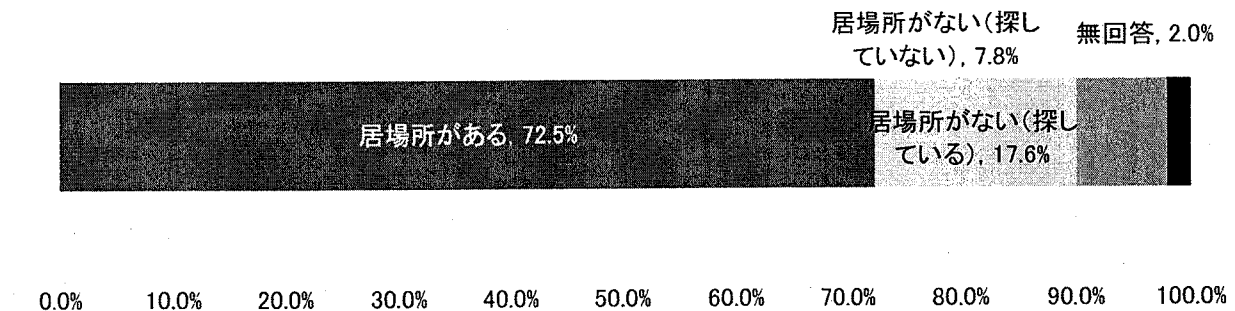
【読み取れること】

- ・「会社員」は、職場と家庭の往復で、まちで過ごす時間が少ないため、居場所への関心が薄いのではないかと推測されます。しかし、退職後の男性が多いと想定される「無職」（「無職」のうち60代以上男性の割合は63.1%）は、居場所に高い関心を持っており、退職後に居場所への関心が高まるのではないかと考えられます。退職後の男性が地域とつながれる居場所、もしくは居場所とつながれるしくみが必要であると考えられます。

3. 居場所の有無

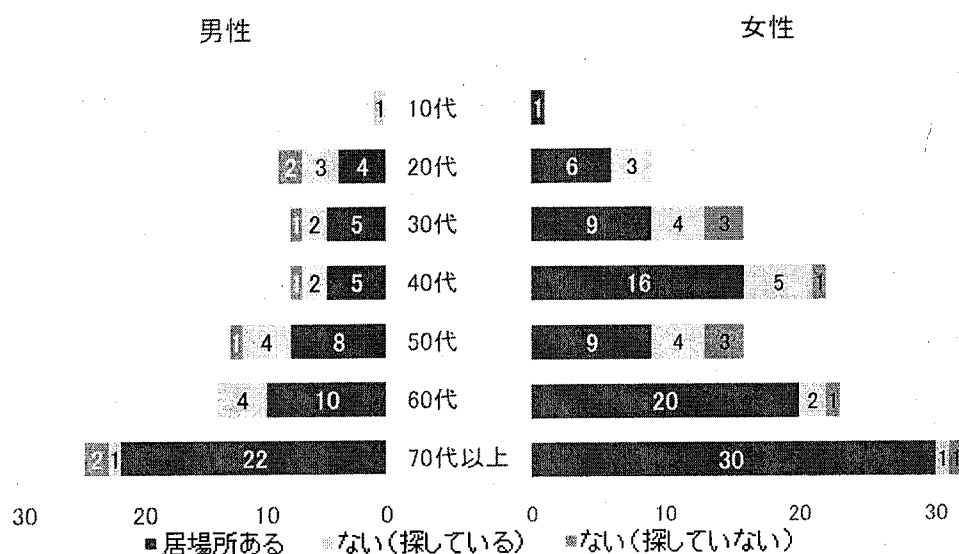
●居場所に関心がある人の7割以上が、「居場所がある」と回答

(1) 居場所の有無(単位:人)



※「2. 居場所への関心について」で「居場所に関心がある」「わからない」と回答した人のみ集計 (n=204)

(2) 居場所の有無(年齢・性別ごと)(単位:人)



※「2. 居場所への関心について」で「居場所に関心がある」「わからない」と回答した人のみ、無回答は除いて集計 (n=197)

【分析】

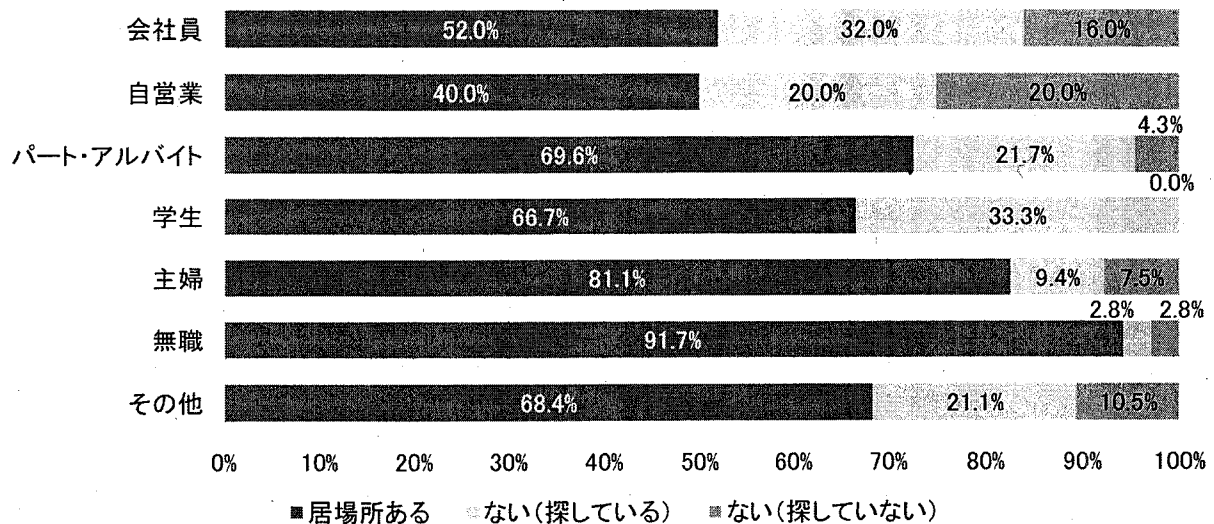
- ・居場所に関心がある人のうち、7割以上が「居場所がある」と回答しています。また、2割弱の人は「居場所がない(探している)」と回答しています。
- ・50代以下は、「居場所を持っていない」と回答している人が3分の1近くいます。そのうち、概ね3分の2以上の方が、「居場所を探している」と回答しています。60代以上は、「居場所を持っている」と回答している割合が、それ以下の年代と比べて高くなっています。

【読み取れること】

- ・どの年代にも、「居場所を探している」と回答している人が一定割合います。既存の居場所とつながるための工夫と、その人たちが居場所だと思えるような新たな居場所をつくっていくことが求められていると考えられます。

●居場所を持つ割合 高→「主婦」と「無職」 低→「会社員」と「自営業」

(3) 居場所の有無(職業ごと)(単位:%)



※「2. 居場所への関心について」で「居場所に関心がある」「わからない」と回答した人のみ、無回答は除いて集計(n=163)

【分析】

- ・会社員・自営業を除く他の職業では、「居場所がある」が6割を超えています。特に、主婦・無職では、「居場所がある」が8割を超えています。
- ・会社員・自営業の「居場所がある」人の割合が、50%前後と少なくなっています。また、自営業においては、「居場所がない(探していない)」人20.0%と多くなっています。

【読み取れること】

- ・「(2)居場所の有無(年齢・性別ごと)」で60代男性は同年代の女性と比較して、居場所を持っておらず、探していると回答している人が多くなっています。そのため、「2. 居場所への関心について」でも取り上げたように、「会社員」時代に居場所に関心がなかったり、関心はあっても居場所を持っていなかったりする人が、退職後に居場所に関心を持つようになり、探し始めるのではないかと考えられます。

4. 居場所として利用されている場所、利用したい場所について

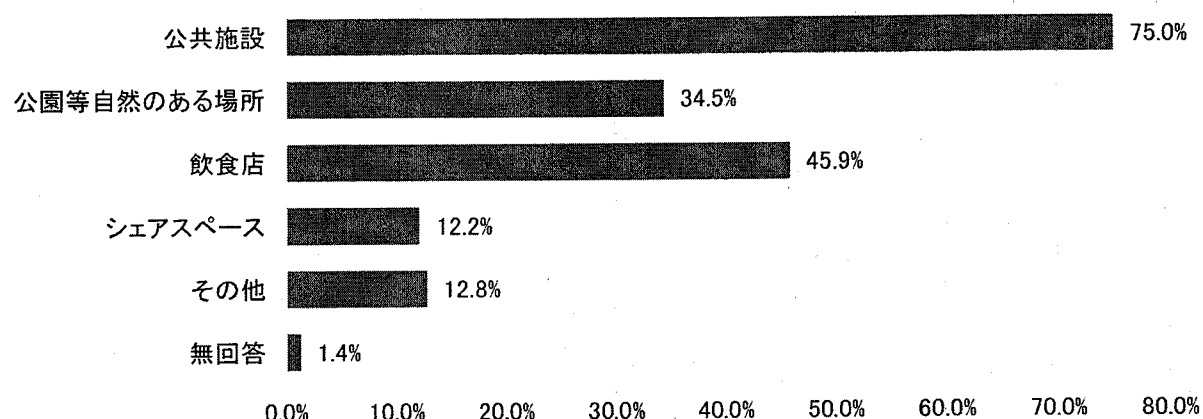
●居場所として「利用されている」のは、「公共施設」「飲食店」「公園等」

(1) 居場所として利用されている場所(複数回答)(単位:人)

利用されている「居場所」	人数(人)
公共施設 (内訳:図書館・35、公民館・43、地域センター・38、その他・3)	111 (75.0%)
公園等自然のある場所	51 (34.5%)
飲食店 (内訳:喫茶店/カフェ・23、コミュニティカフェ・3、 ファミリーレストラン・20、バー/スナック/居酒屋・9、その他・8)	68 (45.9%)
シェアスペース (内訳:コミュニティスペース・6、コワーキングスペース・2、その他・6)	18 (12.2%)
その他	19 (12.8%)
無回答	2 (1.4%)

※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」と答えた人のみ回答 (n=148)

(2) 居場所として利用されている場所(グラフ)(複数回答)(単位:%)



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」と答えた人のみ回答 (n=148)

【分析】

- ・居場所がある人が居場所として利用している場所は、「公共施設」「飲食店」「公園等自然のある場所」です。「シェアスペース」は12.2%と少なくなっています。

【読み取れること】

- ・居場所があり「公共施設」を利用している人のうち、半数以上は60代以上の「主婦」や「無職」の男女です。また、後述の「居場所で何をして過ごしているか？」で、「コミュニケーション・おしゃべり」や「趣味」の割合が高くなっています。そのことから、公共施設でサークル活動などを行っており、そこを居場所としているのではないかと推測されます。

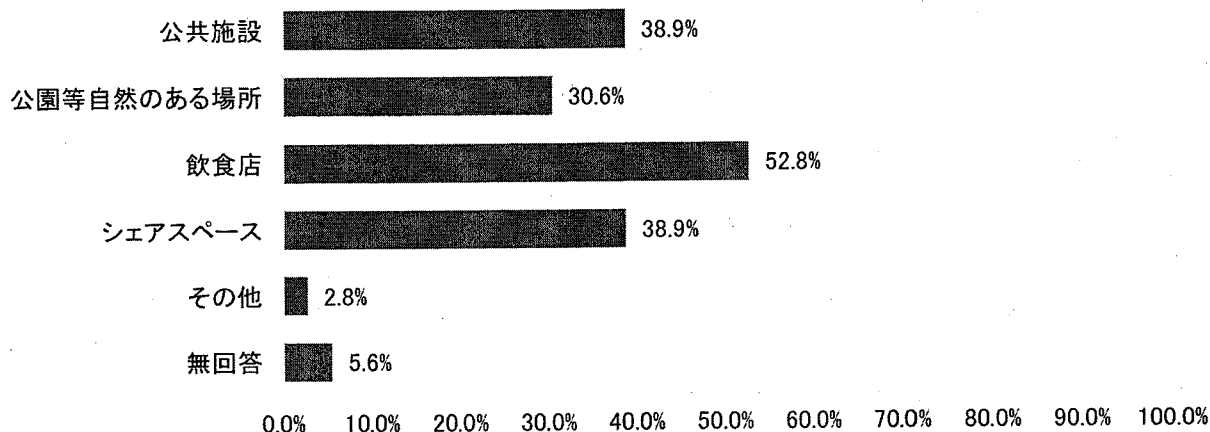
●居場所として「利用したい」のは、「飲食店」「公共施設」「シェアスペース」

(3) 居場所を「探している」人が、居場所として利用したい場所(複数回答)(単位:人)

利用されている「居場所」	人数(人)
公共施設 (内訳:図書館・1、公民館・4、地域センター・4、その他・1)	14 (38.9%)
公園等自然のある場所	11 (30.6%)
飲食店 (内訳:喫茶店/カフェ・11、コミュニティカフェ・2、 バー/スナック/居酒屋・3、その他・2)	19 (52.8%)
シェアスペース (内訳:コミュニティスペース・3、コワーキングスペース・3、その他・4)	14 (38.9%)
その他	1 (2.8%)
無回答	2 (5.6%)

※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ない(探している)」と答えた人のみ回答 (n=36)

(4) 居場所を「探している」人が、居場所として利用したい場所(グラフ)(複数回答)(単位:%)



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ない(探している)」と答えた人のみ回答 (n=36)

【分析】

- ・居場所がない人が居場所として利用したいのは、「飲食店」「公共施設」「シェアスペース」です。
- ・特に「喫茶店/カフェ」は、これから居場所として利用したい人も、居場所として利用している人も多くなっています(「(1)居場所として利用されている場所」参照)。それに対して、「コミュニティカフェ」は、いずれも少なくなっています。

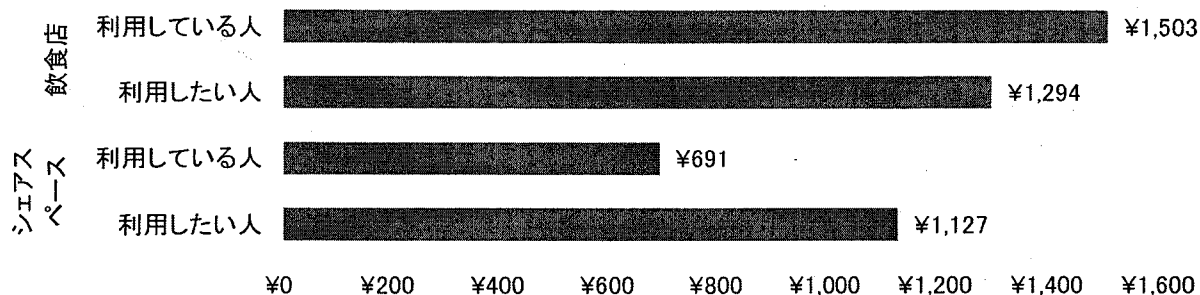
【読み取れること】

- ・「居場所がある」人の、「シェアスペース」の利用率は12.5%と低くなっています(「(1)居場所として利用されている場所」参照)。それに対して、「居場所がない(探している)」人の、シェアスペースを利用したいと考えている割合は、38.9%と比較的高くなっています。今後の居場所として、シェアスペースが求められているのではないかと考えられます。

5. 居場所を利用する際に、支払える金額

●「シェアスペース」は、コストをかけても利用したい

(1) 居場所を利用する際に支払える、1時間あたりの金額(単位:円 / 1時間)



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」(n=148)「ない(探している)」(n=36)と答えた人のみ回答。

※飲食店については、「バー/スナック/居酒屋」を除いて集計した。

【分析】

- ・「飲食店」に支払ってもいいと考えている金額は、「利用している」人の平均が 1,503 円、「利用したい」人の平均が 1,294 円と、利用している人の方が高くなっています。
- ・「シェアスペース」に支払ってもいいと考えている金額は、「利用している」人の平均が 691 円、「利用したい」人が 1,127 円と、利用したい人の方が高くなっています。
- ・職業ごとに分析をしたところ、「飲食店」では、「主婦」(1,695 円)や「会社員」(1,478 円)は比較的高く、「学生」(1,000 円)は低くなっていました。「シェアスペース」では、職業ごとの差は見受けられませんでした。

【読み取れること】

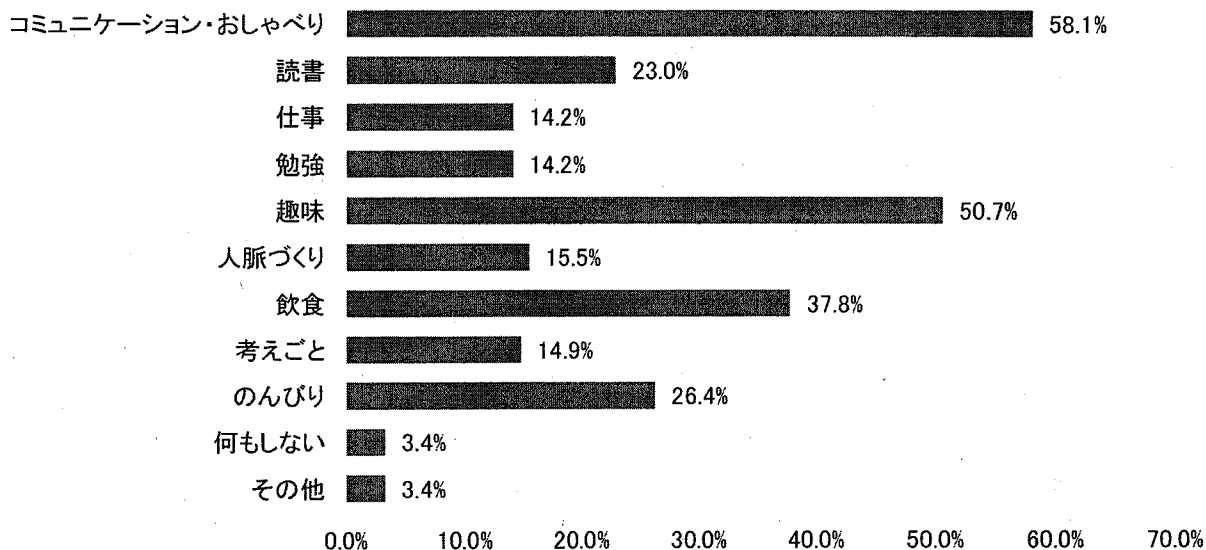
- ・シェアスペースは、現在利用している人よりも、今後利用したい人の方が、高い金額を支払っても利用したいというニーズがあることが分かります。ビジネス性のある居場所として、可能性があるかもしれません。

6. 居場所で何をして過ごしているか？ 過ごしたいか？

●居場所がある人の居場所での過ごし方

「コミュニケーション・おしゃべり」「趣味」「飲食」

(1) 居場所で何をして過ごしているか？(複数回答)(単位: %)



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」と答えた人のみ回答 (n=148)

【分析】

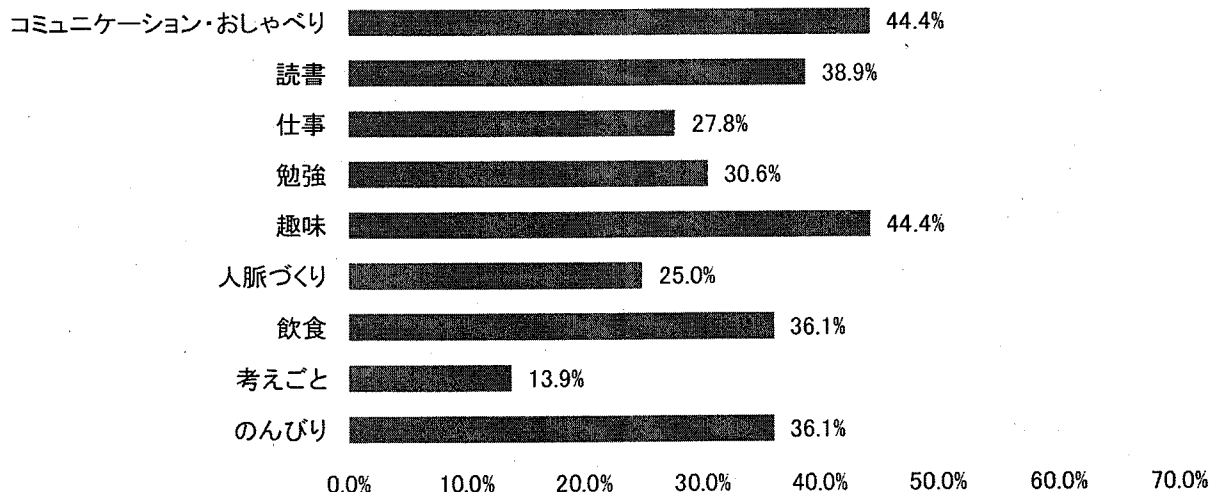
- ・居場所がある人の、居場所での過ごし方として回答が多かったのは、「コミュニケーション・おしゃべり」(58.1%)、「趣味」(50.7%)、「飲食」(37.8%)でした。

【読み取れること】

- ・「居場所がある」人は、「コミュニケーション・おしゃべり」や「趣味」をしながら過ごしているということが分かります。また、「人脈作り」は15.5%と少なくなっており、「友人や知人」と過ごしている割合が高い(「8. 居場所で誰と過ごしているか？」参照)ことから、新しい人と出会うより、既存の友人と過ごしているのではないかと考えられます。

●居場所を探している人が居場所に求めていること 「コミュニケーション・おしゃべり」「趣味」「読書」

(2) 居場所で何をして過ごしたいか？(複数回答)(単位:%)



※「何もしない」「その他」は、いずれも 0.0%。

※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ない(探している)」と答えた人のみ回答 (n=36)

【分析】

- ・居場所を探している人が居場所に求めていることは、「コミュニケーション・おしゃべり」(44.4%)、「趣味」(44.4%)、「読書」(38.9%)でした。
- ・「居場所がある人」では少なかった(「(1)居場所で何をして過ごしているか？」参照)「読書」や「仕事」、「勉強」などについても、25~40%が求めていると回答しています。

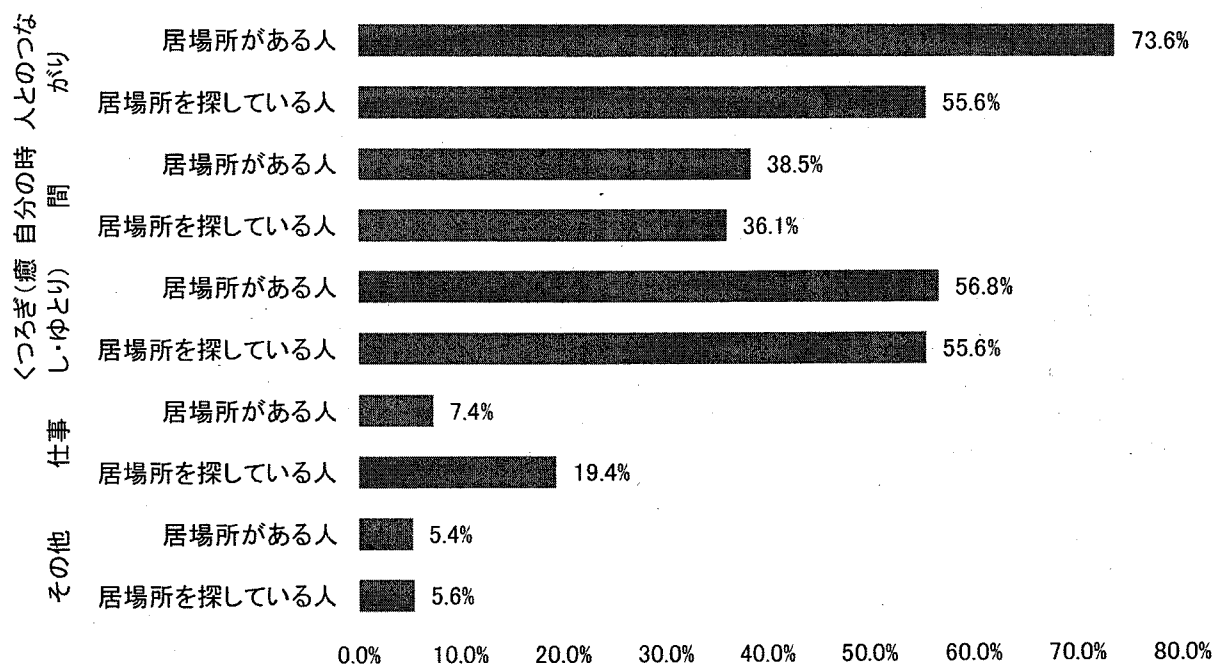
【読み取れること】

- ・「コミュニケーション・おしゃべり」「趣味」については、「(1)居場所で何をして過ごしているか？」でも割合が高くなっていますが、居場所がないが探している人にとっても、重要であることがわかります。そのような場がまだ足りていないとも考えられますが、「人脈作り」が高くなっていたり、後述の「8. 居場所で誰と過ごしたいか？」で「そこで出会った人」を選択している人が多かったりすることから、既存の友人関係ではなく、新たな人との出会いを求めている可能性も考えられます。
- ・「居場所がある」と回答した人たちに比べ、「読書」や「仕事」、「勉強」などができる場所へのニーズがあることが分かります。そのうち、「8. 居場所で誰と過ごしたいか」で「ひとりで」を選択した人は約半数であり、あとの半数は、「読書」や「仕事」、「勉強」などしながら、誰かと場を共有したいと考えていることが推測されます。

7. 居場所に何を求めているか？

●居場所に求めていることは「人とのつながり」と「くつろぎ(癒し・ゆとり)」

(1) 居場所に求めること(複数回答)(単位: %)



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」(n=148)「ない(探している)」(n=36)と答えた人のみ回答。

【分析】

- ・居場所がある人も、探している人も、居場所に対して求めていることは、「仕事（自宅以外の仕事場）」を除き基本的に近似しており、「人とのつながり」「くつろぎ(癒し・ゆとり)」の割合が高くなっています。
- ・居場所がある人は、「人とのつながり」を求める割合(73.6%)が、居場所を探している人(55.6%)より多くなっています。
- ・居場所に対して「仕事（自宅以外の仕事場）」を求めている割合は、居場所がある人では7.4%と低くなっていますが、居場所を探している人では19.4%と居場所がある人の3倍近くになっています。

【読み取れること】

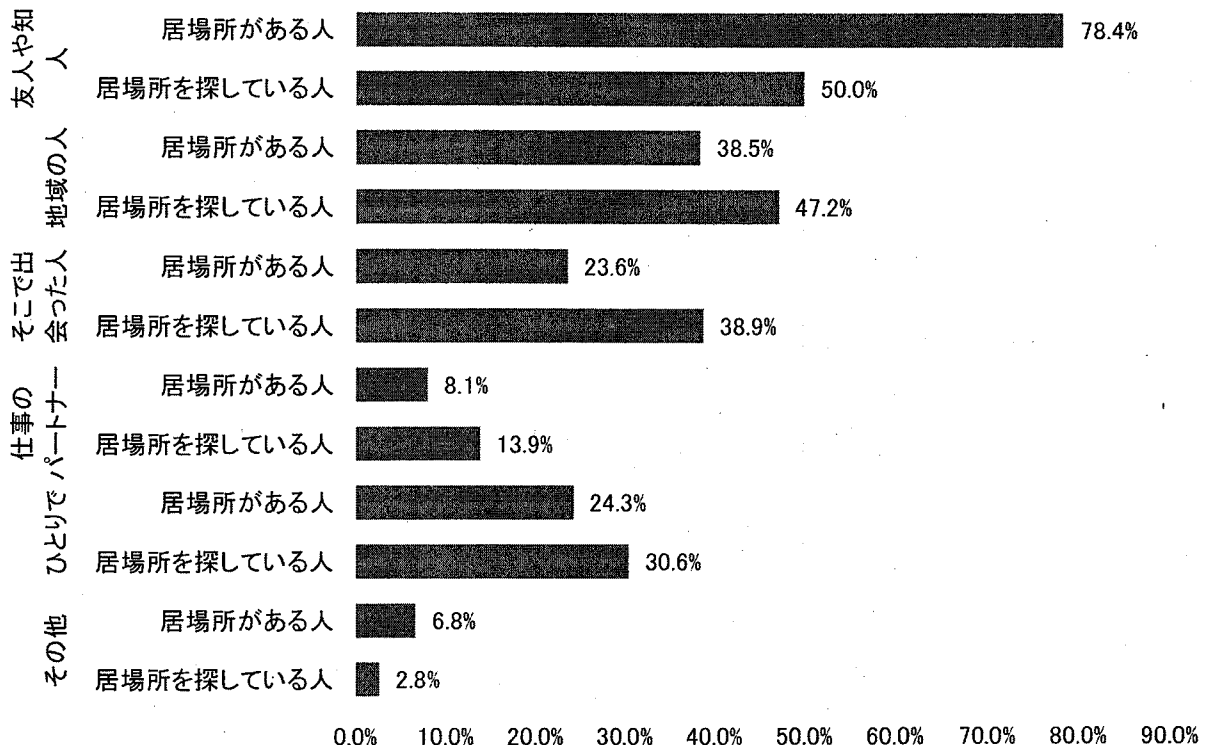
- ・現在、居場所がある人は、他に比べて「人とのつながり」を強く求めています。居場所を探している人のニーズは多様であることが分かります。
- ・居場所を探している人が、「仕事（自宅以外の仕事場）」を求める割合が高いことから、仕事をするのに向いている居場所が足りていないのではないかと考えられます。

8. 居場所で誰と過ごしたいか？

●居場所で一緒に過ごしたい人は、「友人や知人」「地域の人」

「(2) 居場所の有無について」で、居場所が「ある」と答えた人と、居場所が「ない（探している）」と回答した人に対して、居場所で誰と過ごしたいかを尋ねた。

① 居場所で誰と過ごしたいか？（複数回答）（単位：％）



※「3. 居場所の有無について」で、居場所が「ある」(n=148)「ない（探している）」(n=36)と答えた人のみ回答。

【分析】

- ・「居場所がある人」は、圧倒的に「友人や知人」と過ごしている割合が高くなっています（78.4%）。
- ・「居場所がない（探している）人」は、「居場所がある人」同様、「友人や知人」と過ごしたいという回答が一番多いものの、その割合は50.0%と、「居場所がある人（78.4%）」と比べると低くなっています。

【読み取れること】

- ・「居場所がある人」は、新たな出会いを求めているというよりも、既存の友人や知人と過ごしているのではないかと推測できます。
- ・「居場所がない（探している）」人が一緒に過ごしたい人は、「友人や知人」（50.0%）に次いで「地域の人」（47.2%）、「そこで出会った人」（38.9%）となっており、「居場所がある人」に比べて多様なニーズを持っていると考えられます。
- ・「居場所がない（探している）」人のうち、「ひとりで」のみを選択した人は、22.2%です。残りの8割近くの方は、「ひとりで」過ごしたい時と、誰かと過ごしたい時の、両方があると考えられます。複数の居場所を使い分ける、もしくはひとつの居場所をニーズによって使い分けることを求めていると考えられます。

9. 理想の居場所とは？

●「理想の居場所」のかたちは、人それぞれ

(1) 理想の居場所(自由記述)

① 気軽に利用できる

- ・いつでもふらっと、気軽に立ち寄れる雰囲気のある場所であること。
- ・同じ人だけで固定化されていない、出入り自由な雰囲気。空間としてもセンス良く居心地がいい場所。
- ・ふらっと入れて、おしゃれな場所。色んな世代の人と気軽に話せる場所。

② 過ごし方の自由さ、自分らしくいられる

- ・開いている時間が長くて、思い立ったらいつでも行ける。歓迎してもらえる。あまりお金がかからない。騒がしすぎず静かすぎず、構われすぎず放置もされない。誰かと会話をしてもいいし、ひとりで読書などをしてもよい。おいしい食事が少なくともコーヒーが飲める。
- ・仕事も、自分の時間にも使えて、子どもたちも「ただいま～」と言えてしまうような、第二の我が家のようなところ。
- ・誰にも気兼ねしないで、「時間」を楽しめるところ。読書をしたり、飲食したり。
- ・自分らしくいられる場所。誰が行っても好ましい空間になれる場所。
- ・もうひとりの自分を出せる空間・場所。
- ・のんびりと好きなこと（飲食や趣味）をして、過ごせる場所。
- ・その時のニーズに合わせて行ける場所。ニーズに合った場所。自分の周りに、その時のニーズに合わせて行けるような多様な居場所があると良い。
- ・基本的に自分のペースで過ごすことができ、プライバシーもある程度は守られている場所。人と人との距離の取り方が、自分と似ている人たちが集まっていれば、とても心地よいと思う。

③ 関係性、お互いの尊重

- ・何もせずのんびりとくつろげる場所でありながら、いろいろな人との交流が図れ、目標を持って何かを創造できる場所。
- ・ひとりでも居心地よく、誰かと話したい時には初めての人とでも気軽に話せるような場所。
- ・同じ趣味の方や同志の話し合い、コミュニケーションの場。
- ・誰かの力が強くなり、他の人が居づらくなることがない場所。そこで知り合った人が交流でき、くつろげる所。
- ・知人以上友達未満みたいな関係で、なんとなく他人と繋がっていられる場所。

④ そこにいる人、一緒に過ごす人

- ・子ども連れでも気兼ねなくおしゃべりしたり、情報交換できる場所。子どもの動きの制限があまりない場所。
- ・友人がいて、自分の好きなこと（趣味）を共に向上できる場所。
- ・気の合う仲間と過ごせる場所。

⑤ 多様性がある

- ・誰もが自由に振る舞いながら、互いを尊重し合い、過ごせる場所。「皆が自分勝手に過ごして他人に無関心な場所」と真逆の場所。
- ・いろいろな世代（乳児からシニアまで）、ハンデのある人もない人も外国人でも、みんなが気兼ねなく過ごせる場所。

ねなく集える場所。特定の集団が集まるような場ではない。

- ・既存の人間関係が出来上がっているのではなく、新たに訪れた人が自然に溶け込めるような空間。
- ・誰でも自由に入れ、そこでは大人も子どもも対等で過ごせる場所。色々な規制が無く、いつでも来たいと思える場所。

⑥ くつろげる、居心地がいい、リラックスできる

- ・気分転換やストレスの解消ができる所。
- ・仕事や人間関係を気にせず過ごせ、落ち込むこともなく過ごせる。大きくなくても、大事な気づきがある場所。
- ・のんびりできる場所。
- ・安心できて、気を遣わなくてすむ所。
- ・リラックスできる場所、楽しく過ごせる場所。
- ・静かにゆっくり過ごすことができる場所・居心地の良い空間、雰囲気がある。

⑦ 気づき、創造性、情報

- ・自分に無い知識や知恵を気軽に教えてもらえる場所。
- ・ふらっと訪れると、地域の情報が手に入れられたり、話を聞ける場所。
- ・生活に張り合いをもたらすもの。
- ・人とつながり、新しい発見をして自分を豊かにしたい。
- ・自分の生活とは違う空間で、人生を豊かにしてくれる所。
- ・クリエイティブな空間。生活パターンや目的は異なってもスペースを共有することでなにかが起ころうなコーナーと、全く他者と接触しないコーナーが共存し、それらの間を自由に行き来できる場所。
- ・そこにいる人が成長しあえる WIN-WIN の関係の築ける場所。
- ・何か自分に吸収できるものがあるとか、楽しい情報を得ることができる場所。

⑧ 環境

- ・行き慣れた場所、落ち着く所。良い具合の雑音。
- ・クラシック音楽が流れて、適度に明るい空間。パソコンでインターネット接続できる場。
- ・自然環境の良い所（居場所の周りに自然がある）。静かな所（なるべく子ども達の集まらない所）
- ・個人のスペースと交流スペースと両方ある所。
- ・静かで、センスがよく、心豊かな空間。話したいとき、話せる。一人でいたいとき、一人でいられる場所。
- ・テーマ等がある程度はつきりしている、IT 環境等のツールもある程度整っている、聞いているだけでもよいなど、自然に気楽な形で参加できる場であって、その空間を共有することで、共感ができる、異なった視点が開かれる、前向きで生産的になれるような、また意見交換等もできるような場所。

⑨ 1人でいられる、干渉されない

- ・誰からも邪魔されることがなく、ただただ自分のことに専念できる場所。
- ・自分自身のペース、空間で周りを気にせず、自分の世界に没頭できる場所。

⑩ その他

- ・非日常を求めたい。
- ・不安を感じない、考えない時間を過ごす場所。銭湯（風呂）のある所。
- ・球技などができる場所

【分析】

- ・多かった回答は、「くつろげる、居心地いい、リラックスできる」といったことや、「過ごし方の自由さ、自分らしくいられる」などでした。

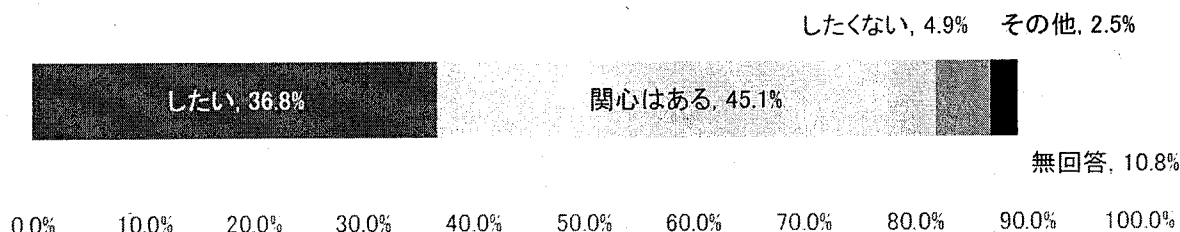
【読み取れること】

- ・全体を通して、それぞれの人たちが求めている理想の居場所は、共通している部分があれば、違っているところもあります。たとえば、積極的にコミュニケーションをとることを求めている人もいれば、誰からも干渉されずにやりたいことに没頭することを求めている人もいます。また、ある時は一人で過ごし、ある時は交流をするなど、その時のニーズによって使い分けることを求めている人もいます。そのような多様なニーズに対応していくための、多様な居場所を用意していく必要があると考えられます。
- ・多くの人たちが居場所に求めることは、「のんびりできる」「リラックスできる」といったことであることが分かります。その中には「気を遣わなくていい」などの記述も見られ、居場所内での人間関係も影響することが分かります。
- ・特に主婦の人たちが、子ども連れで利用できることを重要視していることが分かります。その際に、子どもの行動に制限がないことや、自身が休めるということが求められているようです。

10. 居場所づくりへの関心

●3 割以上が「居場所をつくりたい」、8 割以上の人「関心あり」

(1) 居場所づくりへの関心(単位:%)



【分析】

- ・居場所づくりを「したい」と考えている人は、36.8%です。
- ・「関心はある」もあわせると、8割以上の人々が居場所作りに関心を持っています。

【読み取れること】

- ・全体の3分の1以上が、居場所づくりを「したい」と答えています。その人たちが居場所づくりを始めるきっかけとなるような機会を設ける（講座を開く、仲間を探せる交流会を開く）とともに、居場所づくりがしやすい環境づくりを進めていくことが重要ではないかと考えられます。
- ・居場所づくりに「関心がある」という人が、居場所づくりを「したい」と思えるようなきっかけや環境づくりも進めていく必要があります。

第5章 まちの居場所の事例紹介

5-1 のらうら

1. プロフィール

施設名	のらうら	運営者	シゴトラボ合同会社
		設立年	平成 23 年
所在地	埼玉県さいたま市南区鹿手袋 7-3-19		
TEL	048-799-3214	FAX	048-799-3214
URL	http://baba-lab.net/index.php		

「のらうら」は、シゴトラボ合同会社が運営する、仕事づくりの場です。2 階建ての一軒家で、1 階は「100 歳まで働けるものづくり職場」をコンセプトとした「BABA ラボ」の工房、2 階はレンタルサロンとシェアオフィスとして、一軒家を丸ごと仕事づくりの場として活用しています。隣には、「のらうら」と家主を同じくする「ヘルシーカフェのら」があり、イベントを一緒に行うなど、お互いに協力しながら運営しています。

コミュニティカフェ「のら」 のらうら

※出典：「のらうら」ホームページ(<http://noraura.jimdo.com/>)

2. 代表者のプロフィール

桑原 静さん (シゴトラボ合同会社)



昭和 49 年さいたま市生まれ。

平成 23 年「シゴトラボ合同会社」を設立。

100 歳まで働ける環境を目指した孫育てグッズの工房「BABA ラボ (ばばらぼ)」を地域で運営。

工房では、高齢者の雇用を創出するほか、子連れ出勤の母親の参画を促し、多世代交流の場を提供。

3. シゴトラボ合同会社が目指すこと（コンセプト）

地域や社会に根ざした“じぶんらしい仕事づくり”を目指し、活動しています。

主な事業は

- ・「100歳まで働けるものづくりの職場」を目指している「BABA ラボ」の運営
- ・地域社会の課題を解決するビジネス（コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス・社会起業など）の起業・運営支援、またノウハウの提供です。

4. 設立の経緯

(1) きっかけ

代表の桑原さんは、自身が出産をして、自らの「お母さん」が、「おばあちゃん（BABA）」になった時に、腕の力や腰が弱くなった高齢者でも使えるような抱っこ補助グッズの必要を感じて手作りしました。それがきっかけとなって、「おばあちゃんが使える孫育てグッズを色々と企画したら楽しいかも?」「グッズを地元のおばあちゃんたちで作って売って仕事にするのはどうだろう?」と考えるようになりました。

桑原さんは、会社設立以前より、「歳をとっても生きがいを持って働ける場所」を作りたいと考えていました。地方には農業をはじめとした歳をとっても活躍できる仕事がありますが、都市部では歳をとってから仕事続けることは難しくなっています。

そこで、孫育てグッズを作ることを通して、歳をとっても生きがいを持てるとともに、地域の人とつながれる場所を作りたいと考え、「BABA ラボ」を設立しました。

(2) 「合同会社」という形態を選んだ理由

様々な事業形態がある中で、立ち上げ時の組織形態を検討しました。

まず、株式会社は、一般的に出資者と事業者は別になります。それに対して、合同会社は出資者がそのまま執行役になり、事業を運営します。また、NPO 法人は、会員の同意を得て進んでいきますが、その分意思決定に時間がかかります。ものづくりが主な事業である BABA ラボの経営には、意思決定のスピードが求められるため、NPO 法人という形態も合わないと考えました。

こうした組織特性に加えて、合同会社は、株式会社に比べて立ち上げ費用が抑えられるということと、合同会社自体の知名度が上がってきこともあり、最終的に合同会社という形態を選びました。

5. 事業内容

(1) BABA ラボ

① オリジナル製品「孫育てグッズ」の企画制作販売

高齢者の女性や子育て中のお母さんたちが中心となり、オリジナル製品である「孫育てグッズ」を企画・制作・販売しています。

制作スタッフは、内職としての請負契約であるため、作業は自宅でも可能ですが、「のらうら」の1階にある工房を開放しており、利用することができます。工房は、月曜日・水曜日・金曜日の10:00～17:00に開放しています。毎日利用する制作スタッフが約10名おり、1日に最大20名ほどが利用しています。

② コラボ製品の企画販売

高齢者の女性や子育て中のお母さんたちが企画した、高齢者にやさしい孫育てグッズのアイデアを、

企業や大学とのコラボレーションで具現化し、制作・販売しています。

③ ワークショップの企画運営

月に数回、地域の子どもや大人を対象とした、ものづくりのワークショップを開催しています。

(2) その他

① レンタルサロン「美 BABA サロン」

資格を持っており、施術場所が欲しいというセラピストのために、2階の一室をレンタルサロンとして貸し出しています。利用料は売り上げに応じた歩合制となっているため、「低価格の施術にも利用することができる」「急なキャンセルに対応しやすい」などのメリットがあります。申込対応や当日の受付等は、「BABA ラボ」のスタッフが代行しています。

② シェアオフィス

2階の一室を、シェアオフィスとして利用しています。最大3名までが入居でき、登記もできます。

6. 運営体制

(1) スタッフ構成

「のらうら」で行われているメインの事業である「BABA ラボ」には、現在約50名が関わっています。

① 正社員

代表の桑原さん1名です。

② アルバイトスタッフ

アルバイトスタッフが4名おり、いずれも子育て中のお母さんです。インターネット通信販売のWebページ更新、発送作業、品質管理、全般的な事務作業や管理業務などを行っています。

③ 制作スタッフ

孫育てグッズの制作スタッフは40名ほどおり、全員内職の請負契約（外部委託契約）を結んでいます。子育て中のお母さんから高齢者まで、幅広い年代層が制作スタッフとして関わっています。制作作業は、「のらうら」内にある工房や、自宅などで行っています。内職の報酬は作業量によって決まるため、制作スタッフごとにまちまちで、多い人で5~6万円、少ない人は数十円~数百円ですが、スタッフとして登録した人は、BABA ラボという居場所に魅力を感じて、少額でも役割を持ってコミュニティに参加したいというニーズもあります。

「のらうら」の工房に隣接したキッズスペースがあり、子どもを連れてくることもできます。キッズスペースには、子どもが遊べるようにおもちゃなどが置いてあります。

④ ボランティアスタッフ

ボランティアスタッフが5名おり、まかない（月曜日と金曜日に用意される料理）の調理や、制作スタッフの子どもの遊び相手などを行っています。

(2) 生産管理

制作スタッフは、年齢も背景も多様な人たちであるため、スタッフごとにできることや、できる量が違います。少人数ですべての作業を行った方が効率は良いのですが、できるだけ多くの人に制作スタッフとして関わってもらいたいと考えており、作業工程を細かく分け、できる作業をできる量だけ行うことができるような工夫をしています。

その体制を実現するためには、「制作スタッフそれぞれが何をどれだけ制作したのか」、「制作したものの品質は担保されているか」などといった、生産管理が不可欠です。2014年11月現在、専属のスタッフ2名が行っています。

7. 施設紹介

(1) 物件との出会い

当初は自宅事務所としてスタートした「BABA ラボ」ですが、物件の必要を感じて探していました。物件を探している最中は、チラシや名刺に物件を探していることを書き、アピールしました。

現在の場所が見つかったきっかけは、桑原さんが隣の「ヘルシーカフェのら」で食事をしていた際に、「ヘルシーカフェのら」の運営者に物件を探している旨を話したところ、「同じ家主の、隣の一軒家が空いている」と、大家さんを紹介されたことでした。当時、家主自身も空き家を利用して高齢者のための事業に関わりたいと考えていたため、お互いのニーズが一致して、入居が決定しました。

(2) 施設写真

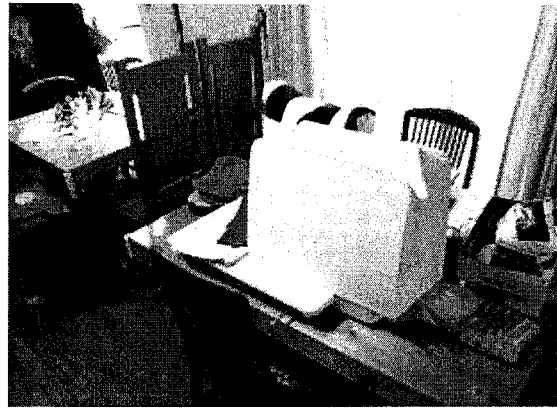
① 外観



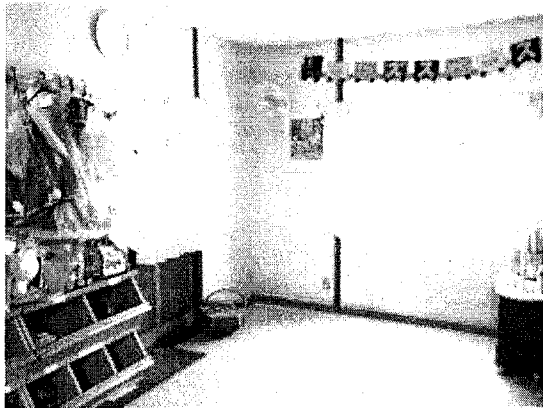
② 1階 BABA ラボ店舗



③ 1階 工房



④ 1階 キッズスペース



⑤ 2階 BABA ラボ事務所



⑥ 2階 レンタルサロン「美 BABA サロン」



⑦ 2階 共同オフィス



8. 周辺地域との関係づくり

(1) 地域情報誌「しかてぶくろ新聞」の発行

「のらうら」や「ヘルシーカフェのら」の取り組みを知ってもらうとともに、所在地である「鹿手袋」を中心とした周辺地域との関係性を深めるために、「ヘルシーカフェのら」と共同で、地域の情報を発信する新聞である「しかてぶくろ新聞」を発行しています。発行資金は、最初は持ち出しでしたが、現在は広告枠（1口 500 円×16 枠）で賄っています。

(2) お祭りの開催

年に2度、夏と冬にお祭りを開催しています。周辺地域・遠方含めて総勢300人くらいが訪れます。

9. 今後の展望

(1) 販路拡大

現在は工房にて、手作りによる“孫育て”グッズの制作を行っており、その商品を自社工房または自社インターネット販売サイトでお客さまに販売するという販路が中心です。今後は、現在の弱みである「営業力」「販路開拓」を強化し、多くのお客さまに手に取っていただけるように、小売店への営業を強化するとともに、“孫育て”という新しいマーケットを開拓すべく、事業に取り組んでいきたいと考えています。また、安定した供給ができるほ乳瓶や玩具等の工業製品の商品開発にも取り組み、強固なブランド作りを行っていく予定です。

(2) サテライト化

現在は1か所で営業しているため、事業に関われるスタッフが近隣在住の方に限られています。高齢者は遠距離の通勤が難しいため、さいたま市内にいくつか製作拠点（サテライト）をもつことで、関われる人数を増やし、一層の高齢者雇用の拡大をはかりたいと考えています。

(3) “孫育て”以外の分野への挑戦

少子化が進み、今後は孫をもつこと自体が難しくなってきます。“孫育て”市場も先細る可能性が高く、BABAラボとしても、「おばあちゃんのアイデア」を活かした別分野での商品開発を計画していきたいです。

<居場所としての「のらうら」>

「のらうら」は、制作スタッフである、子育て中のお母さんから高齢者までの女性、その子どもたちや孫たちと、幅広い年代の人たちが、「孫作りグッズの制作」という共通の目的を持って集っています。さらに、商品制作に関わらなくても、ボランティアスタッフとして関われる、年2回お祭りを開いていることでお父さんたちも関われる、など、多様な層の人たちが参加できる工夫があります。

共通の目的があるために、場が維持されやすくなっているとともに、まかないを出したり、お祭りを開いたりなど、場をあたため続ける工夫もなされており、ただの「作業場」というだけでなく、「のらうら」に関わる人たちや地域の人たちの居場所になっています。

※この記事は、平成26年11月現在の情報をもとに記載しています。

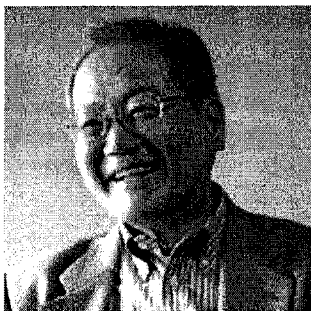
5-2コミュニティカフェ”ゆうあい”

1. プロフィール

施設名	コミュニティカフェ	運営者	NPO 法人ユーアイネット柏原
	“ゆうあい”	設立年	平成 24 年
所在地	埼玉県狭山市柏原 3161-10 柏原ニュータウン 73-3 柏原 SC 内		
TEL	04-2907-8577	FAX	04-2907-8577
URL	http://www.sayama-ui.net/		
事業内容	<p>「コミュニティカフェ”ゆうあい”」は、空き店舗が目立つ団地の中のショッピングセンターの一角にあるカフェです。少子高齢化・買い物難民などの問題や課題が生じている柏原ニュータウンに、NPO 法人ユーアイネット柏原が、交流・憩いの場として開設しました。</p> <p>2 階建ての 1 階にあるカフェは、サービス提供者として登録した住民（主婦）が、有償ボランティアとして交代で運営しています。壁には住民の描いた絵などの作品が飾られています。2 階は、法人事務所と会議室、交流スペースが置かれています。交流スペースでは、囲碁、英会話、詩吟、俳句の会、手芸サークル、生け花教室など趣味のサークルなどの活動も活発に行われています。また、子育て中のお母さんたちにも気軽に利用してほしいという思いから、授乳やオムツ交換ができる場所も設けられています。</p>		

2. 代表者のプロフィール

小澤 浩さん（NPO 法人ユーアイネット柏原代表理事）



40 年間企業に勤め、退職後、自治会活動をはじめ様々なボランティア活動開始。平成 22 年、狭山市主催の「さやま元気大学コミュニティビジネスコース」で、地域社会の課題や問題をビジネスの手法を駆使して解決する術を学ぶ。平成 24 年、地域の課題や問題を解決するために、思いを同じにする仲間を募り NPO 法人ユーアイネット柏原設立。

“住民みんなが、希望と自信と誇りを持って安心して楽しく暮らせるまち”づくりを目指して活動中。

3. NPO 法人ユーアイネット柏原が目指すこと（コンセプト）

“住民みんなが、希望と自信と誇りを持って安心して楽しく暮らせるまち”づくりを目指して活動しています。

主な事業は、①生活支援事業（日常生活を営む上で、支障を来している高齢者や身体障がい者、子育て中の家庭などを支援）、②コミュニティサロン事業（コミュニティカフェ“ゆうあい”の運営、サークル活動やイベントの開催）、③地域支え合いの仕組推進事業（地域商品券の流通による、地域経済の振興とまちづくりの推進）などです。

4. 設立の経緯

(1) きっかけ

代表の小澤さんは、退職後、地域密着の生活をはじめてみると、これまで自身が会社人間であり地域社会と疎遠であったことを痛感しました。

一方、小澤さんの暮らす柏原地域（世帯数 4,840。人口 1 万 2185 人※平成 27 年 2 月 1 日現在）に目を転じてみると、かつてはニュータウンとしてにぎわっていた地域にも、以前のようなにぎわいや活気がなく、少子高齢化や買い物難民などの課題が山積している現実と直面しました。

もともと小澤さんは在職中、15 年間海外生活を経験する中で、社会貢献活動の必要性や重要性を感じていました。そこで、小澤さんは、まず、自治体の役員、中学校の英語授業支援、マジッククラブでの福祉施設・老人会・幼稚園の慰問等々のボランティア活動を開始したのですが、その活動を通して、諸々の問題や課題解決に立ち向かう仕組み・組織の必要性を感じるようになりました。そんな折に、「コミュニティビジネスで地域の課題や問題を解決する」という考え方と出会い、小澤さんの企画案に賛同した信頼できる仲間とともに、「NPO 法人ユーアイネット柏原」を立ち上げました。

(2) 「NPO 法人」という形態を選んだ理由

株式会社という形態は、意思決定をトップダウンでできるため、速いスピードで運営できます。しかし、地域でトップダウンの意思決定をしようとする、と軋轢が生まれることも多くなります。そのため、みんなで話し合っ、て意思決定を行う仕組みを持つ組織体として、また、社会貢献活動及び社会からの信頼性等を考慮して、NPO 法人という形態を選択しました。

5. 事業内容

(1) 生活支援事業

日常生活を営む上で支障を来している高齢者や障がい者、子育て中の家庭などを支援しています。具体的には、家事手伝い、簡単な水周り・電気周りの調整・修理、庭木の剪定や除草、通院や買物の随行、買物代行、子育て支援などを行っています。サービスの利用は有料ですが、社会貢献活動であるという NPO 法人の趣旨にのっとり、近隣の同業他社の料金に比べて、利用料は安く抑えています。

サービス提供は、ユーアイネット柏原の会員である地域のシニア層が主体となつて、有償ボランティアの形で実施しています。ボランティアスタッフへの謝礼は、後述「地域支え合いの仕組推進事業」の地域商品券（地域通貨）で決済しており、地域商店の活性化も視野に入れています。また、自治会より、バス停・公共スペースや児童公園の清掃、ごみ集積場の整備等の受託事業や行政との協働事業による受託事業も行っています。

(2) コミュニティサロン事業

① コミュニティカフェ “ゆうあい” の運営

活動の舞台である「柏原ニュータウン」には、時代の流れの中で、カフェなどの交流や憩いの場がなくなり、住民同士の交流もままならない実態がありました。そこで、まず交流スペースを立ち上げようということで、事務所の 1 階にコミュニティカフェを開設し運営しています。誰でも気軽に

利用でき、そこで人と接したり、話をしたり、何かを学んだりできる空間にすることを目指しています。ニュータウンに暮らす地域の主婦約 20 名が、交代でカフェ運営スタッフとして活動しています。

② 行事サロンの展開

行事サロンでは、囲碁、詩吟、生け花など、サークル活動やイベントの開催を行い、健康で文化的な生活を応援しています。こうしたサークル活動を通して多世代の住民同士の交流が生まれています。

行事サロンでは、参加を地域に呼びかけることで、普段外に出ない高齢者が「活動への参加を目的として歩いて来る」「活動に参加することで交流が生まれる」など、高齢者のいきがい創出や健康増進、孤立防止につながる活動となることも目指しています。

2 階の小部屋には、赤ちゃん連れのお母さんたちも利用しやすいように、授乳スペースや、オムツ替えスペースを確保しています。

(3) 地域支え合いの仕組推進事業

ユーアイネット柏原の「生活支援事業」は、サービスを受ける人も提供する人も住民であります。利用者は、「サービス利用券」を購入し、サービスを受けたときに「サービス利用券」で支払います。サービス提供者は、利用者から「サービス利用券」を受け取ると、報酬としてユーアイネット柏原から利用券の 75% を「地域商品券」で受け取ります。「コミュニティサロン事業」のカフェスタッフや講師への報酬も、「地域商品券」で支払われています。

「地域商品券」はこの活動に登録した地域の商店で使うことができます。この「地域商品券」が流通することにより、地域商店の応援と地域経済の活性化にもつながっています。

6. 運営体制

(1) スタッフ構成

① 理事・監事

ユーアイネット柏原の目的と理念に共感・賛同して集まった 11 名（理事 10 名、監事 1 名）で立ち上げました。平成 27 年 2 月現在は、理事 9 名、監事 2 名の構成です。

② 正会員（有償ボランティアスタッフ）

「生活支援事業」および「コミュニティサロン事業」に関わるボランティアスタッフは、責任を持って仕事を遂行するため、全員 NPO 法人の正会員になっています。会員は平成 27 年 2 月現在、約 120 名です。

③ 賛助会員

NPO の活動に直接関与できませんが、活動趣旨に賛同して側面的に支援する個人や団体の会員です。賛助会員は、平成 27 年 2 月現在、個人が約 90 名です。

④ 法人会員

活動趣旨に賛同して、側面的に支援する法人や団体の会員です。

7. 施設紹介

(1) 活動拠点

NPO 法人を立ち上げた当初は、小澤さんの自宅を事務所として利用していましたが、小澤さんの

家族と事務所利用者との双方に遠慮が生じるため、他に集まれる場所が必要だと考え、現事務所を構えました。

事務所物件を考慮する際に、空き家なども考えたのですが、駐車場や近所迷惑の問題などから公に開かれた場所である必要性を感じ、柏原ショッピングセンター内の現事務所に設置を決めました。

物件は、不動産会社所有の事業用物件で、当初の家賃は予算を大幅に上回っていました。しかし、この組織は営利を目的とするのではなく、「生活に支障がある人の手助けをする」ことや、「地域住民の交流や憩いの空間である」ことなど、地域にとって公益性の高い業務を遂行するためのものであることを、何回にもわたって説明に出向き、最終的にその意義と有用性を理解され、予算の範囲に収まる金額で賃貸契約に至りました。

(2) 施設写真

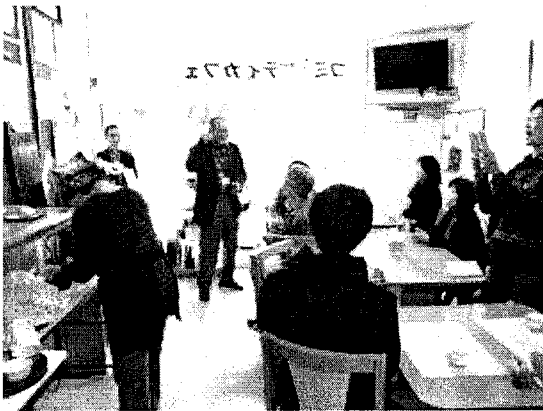
① 柏原ショッピングセンター



② コミュニティカフェゆうあいの正面



③ 1階 コミュニティカフェ”ゆうあい”



<平成 26 年度 小平市いきいき協働事業>

つながる はじまる まちの居場所づくりガイドブック

平成 27 年 3 月

発 行 小平市市民生活部市民協働

〒187-8701

東京都小平市小川町 2-1333

TEL 042-346-9809(直通)

<http://www.city.kodaira.tokyo.jp/>

NPO 法人 Mystyle@こだいら

〒187-0043

東京都小平市学園東町 1-17-8

TEL 042-312-1789

<http://mystyle-kodaira.net/>

調査・編集 NPO 法人 Mystyle@こだいら